

令和4年度

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 No.24



薬師岳山頂の薬師堂（解体直前の様子 令和4年9月25日）

古来、薬師岳は信仰の山でした。薬師岳山頂遺跡は、標高2,926mにある市内最高所の遺跡で、高山での山岳信仰の実態を知るうえで重要な遺跡です。今回、築52年の祠（薬師堂）が再建されることになり、解体及び整地、石積みの積み直しに伴い工事立会を行いました。奉納剣や寛永通宝など信仰を物語る資料が新たに見つかりました（※詳細はP40の研究報告4参照）。

目 次

I 史跡この1年	
1 北代縄文広場	2
2 婦中安田城跡歴史の広場	3
II 埋蔵文化財調査概要報告	
1 榆原遺跡	4
2 水橋金広・中馬場遺跡	5
3 任海宮田遺跡	5
4 四方荒屋遺跡・四方背戸割遺跡	6
5 吳羽富田町遺跡	7
6 上野鍋田遺跡	8
7 下邑東遺跡	8
III 令和4年度事業概要	
1 埋蔵文化財調査実績	9
2 遺跡地図管理	14
3 史跡の保護・管理	15
4 展示・普及	18
IV 研究報告	
1 石棒の石材に関する一考察 〔三上智大〕	24
2 越中国の七瀬祓 〔堀沢祐一〕	28
3 富山市八尾町高善寺地内出土の埋蔵錢について 〔鹿島昌也・仲あづみ・成瀬瞳〕	34
4 薬師岳山頂遺跡における祠解体に伴う 工事立会 〔野垣好史〕	40
5 富山城跡出土の汽車土瓶について 〔鹿島昌也〕	47

I 史跡この1年

はじめに

北代縄文館展示室と安田城跡資料館は、令和4年4月6日から新型コロナウイルス感染症対策を一部緩和させ、展示施設の入館者制限数を引き上げました。あわせて、団体等の予約受付や屋外展示の解説も再開しました。令和4年7月15日からは、北代縄文広場で閉鎖していた高床建物の見学を可能とし、縄文土器づくり等の体験学習を再開しました。

また、各施設では、引き続き館内消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めました。

1 北代縄文広場

(1) ミニ企画展「栗山コレクションの土偶・土製品」(7/12~1/22) を開催しました。

栗山コレクションとは、栗山邦二（くりやまくにじ）（1903～85）氏が富山・石川・岐阜県の各地を歩いて採取した土器や石器などのことで、富山県の考古学研究において大変貴重な資料です。総数は7,945点を数え、現在は富山市考古資料館に収蔵・保管されています。今回はその中から縄文時代の土偶や土製品を40点展示しました。

土偶は22点、ミニチュア土器10点、三角とう形土製品3点、土版^{どばん}5点を紹介しました。中でも、ミニチュア土器は超小型の土器で、形は通常の大きさの土器と同様に文様を描いた精巧なものもあれば、無文のものもあります。用途としては、祭祀に使用した説や子どものおもちゃ説などがあります。栗山コレクションでは深鉢型^{ふかばち}が多いようです。



展示状況

(2) ミニ企画展「大石棒展」(1/24~7/17) を開催しています。

石棒は縄文時代の磨製石器の一種で、断面の形が円形もしくは楕円形で、両端または一端をコブ状に加工した長い棒状の石製品です。祭祀行為に使われたと考えられています。

今回は、石棒の長さよりも幅（最大幅）に注目して、富山市内で出土・採取した縄文時代中期（5,000～4,000年前）以降とされる幅10cm以上の大型石棒6点を展示しています。

これらの石棒は、主に凝灰岩^{きょうかいがん}で加工しやすい石材で作られており、また、今まで不明であった4点の石棒の石材が富山市科学博物館の協力によって判明しました。（※詳細な報告は24～27頁参照）（三上智丈）



婦中町田島地内で表採された石棒
(長さ 81.9cm・幅 17.5 cm)

2 婦中安田城跡歴史の広場

(1) 安田城跡再整備事業

婦中安田城跡歴史の広場では、貴重な歴史遺産である史跡安田城跡を適切に保護・公開し、歴史学習や憩いの場として利用促進を図るため、国庫補助金の交付を受けて再整備事業に取り組んでいます。

安田城跡の大きな魅力となっている堀ですが、近年では堀底に厚く堆積した泥が水面から露出し、本来の城の姿が理解しづらくなっているほか、護岸からの漏水も頻発しています。そこで令和4年度、堀の改修に着手し、泥の除去や護岸の長寿命化改修を行いました。護岸には、耐久性・景観性に優れたプラ擬木板柵や遮水シート等の現在資材を用い、既設木杭の下部を土留めとして地中に残しました。

堀の改修は今後数年間にわたって実施する予定で、水をたたえた堀の景観をよみがえらせるとともに、水辺の自然を活かして史跡の活用の幅を広げていきたいと考えています。

このほか、基本設計や実施設計（令和5年度工事予定分）を実施し、工事や設計には学識経験者による再整備検討会議（第5回：令和4年12月21日～22日、第6回：令和5年2月20日）で得た意見を反映しました。

（大野英子）



堀改修工事の様子

氏名	所属	専門分野
西井 龍儀	富山考古学理事、一級建築士	考古学・建築
高岡 徹	とやま歴史的環境づくり研究会代表、越中史壇会会員	戦国史
古谷 元	富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科 教授	地盤工学
黒田 啓介	富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科 准教授	環境科学・環境工学
中田 政司	富山県中央植物園長	植物環境
中村 只吾	富山大学 学術研究部教育学系 准教授	活用・地域づくり
澤野 重雄	富山市公園緑地課長	公園整備

第5・6回安田城跡再整備検討会議の専門家（敬称略）

(2) 自然講座「堀の水生植物の新しい楽しみ方～外来種のスイレン、在来種のカキツバタ～」

令和4年5月31日、中田政司氏（富山県中央植物園長）を講師に迎え、安田城跡自然講座を開催しました。

講座では、スイレンは生態系に被害を与える「重点対策外来種」に指定されており、堀の底泥堆積の原因になっていること、異常繁殖して魚類・水生昆虫や水草に悪影響を及ぼしていること等を説明されました。その後、堀のスイレンを実際に採取して、つくりや、適切な管理をするためには茎のどの部分を切断すればよいかなどについて解説していただきました。

安田城跡の再整備では、スイレンを管理可能な範囲まで縮小して、併せて在来種のカキツバタを植栽する計画です。中田氏は、カキツバタはスイレンのように異常繁殖しないため管理がしやすく、富山県では絶滅危惧植物に指定されている花もあるので、再整備後の安田城跡を絶滅危惧種と外来種に関する学習の場としても活用できるのではと話されました。

当日はカキツバタとスイレンの実物を目の前で見ながら講座を聴くことができ、充実した内容となりました。参加者の皆さんには、再整備後は歴史と自然学習の両方を楽しむことができる安田城跡の姿を楽しみにしておられるようでした。

（坂田志穂）



中田氏によるスイレンの解説

調査概要報告 1 縄文時代の土坑群を確認

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富市中心部から約 18 km 南方に位置し、神通川左岸、標高 137m 前後の河岸段丘上に立地します。調査地は現在の細入中核地区センター内に所在します。

本遺跡のこれまでの調査では明確な遺構は発見されていませんが、神通川を挟んだ対岸には縄文時代の大規模な集落跡が発見された布尻遺跡があります。

2 調査の概要

防災無線基地局用鉄塔建設に先立ち、基礎部分の 5.4 m × 5.4 m の範囲について立会調査を行いました。

調査地は、現在の国道 41 号線の高さまで厚さ約 4m の盛土がなされており、その下から厚さ 20 cm の縄文時代の包含層を確認し、さらにその下の黄褐色の粘土層から縄文時代の土坑が多数見つかりました。

見つかった土坑はみな不成形で、深さは 10~40 cm を計ります。配置の規則性もみられません。土坑の埋土は、暗褐色土を主としながら遺構面を形成する黄褐色粘土のブロックが多量に混じり、比較的短期間で埋没したと考えられます。また、縄文土器や石皿が出土した土坑があるものの、その様な遺構は少数に止まります。

遺物は縄文土器、石皿、焼成粘土塊、被熱礫が包含層や土坑の埋土から出土しました。出土した縄文土器は、詳細な時期を判別できませんが、文様の施文方法から縄文時代中期と考えられる土器があります。また、出土した石皿は焼けており、製粉具として使われなくなった後に被熱礫とともに住居の炉石に転用されたと考えられます。そのため、調査地の周辺に縄文時代の住居址の存在が示唆されます。

3 見つかった土坑について

今回見つかった土坑群は、調査面積が狭く、遺物を伴う土坑も少ないため、はつきりとした性格はわかりません。しかし、形状が不成形な点や全て粘土層を掘り込んでいる点、遺物が少なく比較的短期間で埋没したと考えられる点等から粘土採掘坑の可能性があります。周辺に住居址の存在が示唆されることや焼成粘土塊の出土も踏まえれば、集落内における土器つくりのための土取場であった可能性も考えられます。

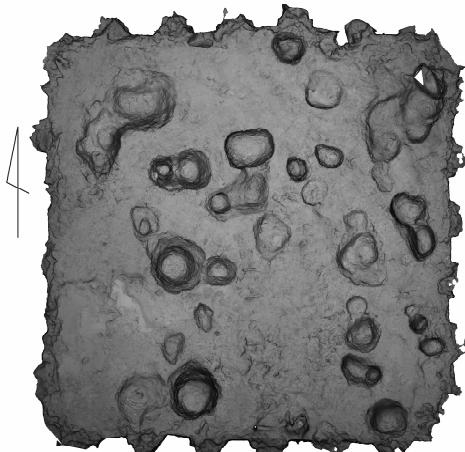
(納屋内高史)

にれはら
榆原遺跡

(榆原地内)



遺構完掘状況（北東から）



遺構完掘状況オルソ画像



出土した遺物

調査概要報告 2 古代の畑跡

1 遺跡のあらまし

遺跡は、富山市水橋地区の白岩川右岸の平野部、標高約 9mに位置します。周辺は縄文時代以降、多数の遺跡が形成されてきた地域です。

本遺跡は、平成 10 年度から 21 年度にかけて農道や北陸新幹線建設に伴う調査が行われ、縄文時代から江戸時代まで長期に及ぶ遺跡であることが判明しました。弥生時代から平安時代までは主に畑跡等の生産域、鎌倉時代から江戸時代にかけては館跡を中心とする居住域が広がっていました。

2 調査の成果

富山県の除雪基地新築工事に伴い発掘調査を行いました。調査区全体で確認された平行する多数の溝は、古代の畑跡とみられます。南側で過去に行われた調査でも同様の遺構が見つかっており、一帯は古代の畠地が広がる生産域であったことがわかります。出土遺物は、古代の土師器・須恵器・銅錢などのほか、東海地方で生産される灰釉陶器もあります。また、前後の時代（弥生～古墳時代、中世）の遺物もあるため、長期にわたって人為活動があったことを示します。

（野垣好史）

みずはしかねひろ なかほんば 水橋金広・中馬場遺跡

（水橋中馬場地内）



平行する多数の溝からなる畑跡

調査概要報告 3 幾重にも重なる流路跡

1 遺跡のあらまし

神通川と熊野川に挟まれた扇状地に立地する本遺跡は、豊かな水資源を利用し、奈良・平安時代に開墾が進み、大集落を形成しました。一方で、両河川の氾濫により畑跡や住居跡などの遺構が何度も埋没し、削られた痕跡も調査で確認されており、河川の影響を強く受けながらも、繰り返し生活を営んでいた様子がうかがえます。

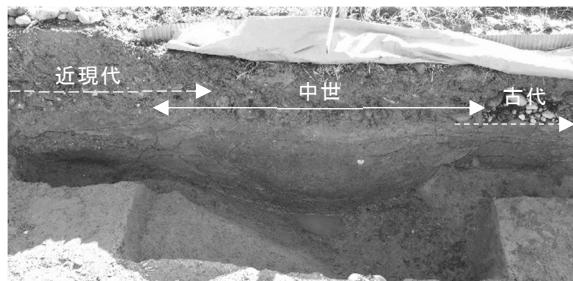
今回の調査区は、とやま健康パークと富山南総合公園の間に位置します。令和 2 年度に北隣で調査を実施し、古代から中世にかけて何度も掘り直して使用された溝などを確認しました。

2 調査の概要

市道の改良工事に伴い発掘調査を実施し、4 条の時代が異なる大小様々な溝（流路跡）を確認しました。なかでも、調査区の南北を横断する幅約 23m もの古代の大溝の中には、埋没後に中世と近現代の流路跡が切り合うように形成されていました。中世の流路跡の土層を見ると、地山土や古代の堆積土が混じるブロック土が分厚く堆積していることから、この時期に、洪水で水があふれて、周囲の土を削りながら一気に土砂が堆積する状況があったのではないかと思われます。（泉田侑希）

とうみみやた 任海宮田遺跡

（任海地内）



古代・中世・近現代の各流路
が、それぞれ切り合う土層断面

1 遺跡のあらまし

両遺跡は、神通川下流左岸の平野部に隣接して立地する遺跡で、標高 3m です。過去の調査で 2 面の遺構面を確認していました。今回の調査で、下層面の北側には浅い埋没谷（旧河川跡）が存在し、その谷の南側微高地に弥生～古墳時代の集落が広がっていることが分かつきました。このことから、弥生～古墳時代の集落が広がる南側を「四方背戸割遺跡」とし、下層遺構がない北側を「四方荒屋遺跡」として遺跡範囲を修正しました。

四方背戸割遺跡では、平成 10・17 年度の調査で弥生時代中期～後期の平地式建物、中世の掘立柱建物などが検出されています。平成 25 年度の調査（当時は四方荒屋遺跡として調査）では、弥生時代後期の排水路、平地式建物などが見つかっています。

四方荒屋遺跡では、平成 7・9・11 年度の調査で、区画溝に囲まれた鎌倉～室町時代の屋敷跡が見つかっています。

2 江戸時代の畠跡と中世の道路跡

ドラッグストア建設に伴う今回の調査で、上層から江戸時代の畠跡、中世の道路跡、平安時代の掘立柱建物などを確認しました。

江戸時代の畠跡は、四方荒屋遺跡では A 群（東西方向）・B 群（南北方向）、四方背戸割遺跡ではほぼ B 群のみを確認しました。過去の調査結果を合わせると、A 群が約 2.6ha、B 群が約 3.3ha の範囲を畠地利用していたことが明らかとなりました。

また、側溝をもつ幅約 3m の南北方向の道路跡、それに直交する道路跡を検出しました。側溝からかわらけ・珠洲が出土しており、中世の道路跡と考えられます。

その他、平安時代の須恵器や白磁などが出士する一辺 0.4～1.0m の柱穴があり、掘立柱建物が複数棟建っていたと考えられます。



調査区(上層)全景 (四方荒屋遺跡)



中世の道路跡 (四方背戸割遺跡)



弥生土器出土状況 (四方背戸割遺跡)

3 弥生時代中期の集落

四方背戸割遺跡の下層からは、弥生時代中期の土坑、柱穴などを検出しました。土坑から弥生時代中期の土器が出土しました。遺構・遺物数は少なく集落の縁辺部と考えられます。四方荒屋遺跡の畠の畝溝から弥生時代の石鏃が出土しました。

また、試掘調査時に、1カ所の土器集中を確認しました。平成17年度調査でも4カ所の土器集中を確認しており、同様の土器廃棄例と考えられます。

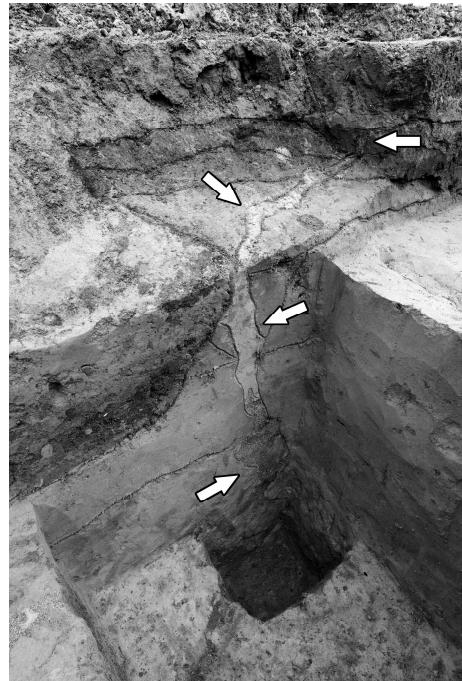
4 地震痕跡

今回の調査でも大規模な地震による液状化現象の痕跡である噴砂を複数条検出しました。その他に地割れ跡と考えらえる不整形な溝も検出しました。

過去の調査では、遺構との新旧関係から863年貞觀地震、1586年天正地震、1858年飛越地震のいずれかの地震痕跡と推測しています。

今回検出した噴砂は、いずれも江戸時代の畠跡を突き抜ける層まで達しており、1858年飛越地震の痕跡と推測されます。

(堀内大介)



噴砂跡 (矢印部分が砂脈)

調査概要報告5 平安時代の掘立柱建物

呉羽富田町遺跡

(北代地内)

1 遺跡のあらまし

遺跡は、呉羽丘陵北西に広がる北代台地上に立地し、標高約16mです。昭和52年の遺跡北西部の調査では、奈良時代末から平安時代前期の竪穴建物4棟が見つかっています。平成13年の遺跡北東部の調査では、平安時代の掘立柱建物3棟が見つかっています。

北代台地には、長岡杉林遺跡や北代遺跡など古代寒江郷の集落が点在しており、この遺跡も寒江郷の一集落と考えられています。

2 平安時代の掘立柱建物群

令和4年3月、個人住宅建築に伴う発掘調査を行いました。その結果、平安時代の須恵器、土師器などが出土し、掘立柱建物の柱穴が3基見つかりました。そのうち2基は掘立柱建物SB01の柱穴です。SB01の規模は、桁行不明、梁行5.5mを測ります。

今回調査区の東50mにある平成13年調査区で検出しましたH13-SB01は、桁行2.45m、梁行5.44~5.52mを測ります。

今回調査SB01とH13-SB01は、梁行の長さがほぼ同じであり、同規模の掘立柱建物が建っていたと思われます。このことから、平安時代には遺跡北東部周辺に掘立柱建物が群を成していたと考えられます。

(堀内大介)



平安時代の掘立柱建物 SB01 (△が柱穴)

調査概要報告 6 鎌倉～室町時代の集落と江戸時代の墓

1 遺跡のあらまし

遺跡は、熊野川支流土川右岸の緩扇状地に立地し、標高は約30mです。遺跡の東には富山と舟倉を結ぶ舟倉街道の1つが通っています。

過去の調査で、遺跡の北部には弥生～古墳時代の集落の広がりを確認しています。

2 鎌倉～室町時代の集落

今回は、駐車場造成に伴う試掘調査を遺跡の南部で行いました。その結果、かわらけ、珠洲、八尾、瀬戸美濃など鎌倉～室町時代の遺物が出土し、柱穴、土坑、溝などを検出しました。江戸時代の流路も確認しました。

今回の調査で、鎌倉～室町時代には街道沿いに集落が形成されていたことが分かりました。また、江戸時代には流路ができる規模の常願寺川などの氾濫が起きたことが推測されます。

3 江戸時代の墓

試掘範囲内に墓と伝わる河原石が集められた高まりが存在します。墓かどうかを確認する断ち割りを行いました。その結果、越中瀬戸の素焼の骨壺が埋納されており、江戸時代の墓であることが判明しました。
(堀内大介)

調査概要報告 7 奈良・平安時代の瓦が出土

1 遺跡のあらまし

遺跡は羽根丘陵の東側、辺呂川沿いの平野にあり、標高は約14～17mです。周辺では、過去の調査で奈良・平安時代の遺構・遺物が広範囲で確認されており、大規模な集落が広がっていたと推測されます。

2 調査の成果

県営ほ場整備事業に伴い約3.2haを対象に試掘調査を行ったところ、対象地の一部で奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されました。瓦が出土していることから、単なる集落ではなく、役所や寺院など重要施設が存在する地域だった可能性があります。

また、鎌倉・室町時代の漆器等も出土しており、長期にわたり遺跡が営まれたことが推測できます。

上野鍋田遺跡

(上野地内)



江戸時代の墓の断ち割り (▽骨壺)



越中瀬戸の蓋と骨壺

下邑東遺跡

(婦中町羽根地内)



出土した瓦

(野垣好史)

III 令和4年度事業概要

1 埋蔵文化財調査実績

(1) 発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積 (m ²)	調査結果	遺跡の種類
四方荒屋 (2010026)	四方荒屋字漆縄割	店舗建築	1,060	古代土坑、鎌倉土坑、中世～江戸 畝状遺構群／弥生（中）弥生土器、 弥生（中）石鏃、古代土師器、 古代須恵器、鎌倉白磁、江戸 越中瀬戸、不明鉄製品	集落
四方背戸割 (2010027)	四方荒屋字漆縄割	店舗建築	660	弥生（中）土坑、弥生（中）ピット、 中世～江戸畝状遺構群、中世 ～江戸溝、中世～江戸土坑、中世 ～江戸ピット、江戸噴砂／弥生 （中）弥生土器、古代土師器、 中世土師器、中世珠洲、不明土錘、 不明鉄製品、不明打製石斧	集落
水橋金広・中馬場 (2010286)	水橋中馬場	除雪基地建築	248.5	古代土坑、古代畝状遺構、古代溝 ／古墳土師器、古代土師器、古代 須恵器、古代銅錢、中世土師器、 中世珠洲	集落・田畠
任海宮田 (2010654)	任海	市道任海13号線 改良工事	74.3	平安大溝、平安土坑、平安柱穴、 不明溝／平安土師器、平安須恵 器、中世珠洲、江戸瀬戸、江戸磁 器、古代鉄滓	集落
計4件			2,042.8		

令和3年度補遺(3月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積 (m ²)	調査結果	遺跡の種類
吳羽富田町 (2010182)	北代	個人住宅建築	42	平安掘立柱建物／平安土師器、平 安須恵器、平安土坑、平安鉄滓、江 戸磁器	集落
計1件			42		

(2) 試掘調査・工事立会 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
打出(2010002)	布目	個人住宅建築	330	遺跡なし
大村(2010008)	海岸通	個人住宅建築	292.2	中世堀／中世土師器、江戸越中瀬戸
中沖(2010018)＊	中沖	土地改良総合整備事業 による暗渠排水工事	3,727	近代磁器
吳羽野田 (2010020)	吳羽野田	駐車場造成	709.16	遺跡なし
今市(2010023)	寺島	個人住宅建築	495.28	平安柱穴、平安土坑、平安溝／平安須 恵器、平安土師器
今市(2010023)	寺島、八町東	特別高压送電線鉄塔建 築	512	古代溝、古代ピット、古代～中世溝／ 古代須恵器、古代土師器
今市(2010023)	今市字天池	個人住宅建築	296.02	江戸陶磁器
四方荒屋 (2010026)	四方荒屋字漆縄割	店舗建築	2,467	中世～江戸溝（畠）、中世～江戸土 坑、中世～江戸ピット／古代土師器、 中世土師器
四方背戸割 (2010027)	四方荒屋字漆縄割	店舗建築	3,943	弥生（中）溝、弥生（中）ピット、弥 生（中）土器溜まり、古代掘立柱建 物、中世～江戸溝（畠）、中世～江戸 土坑、中世～江戸ピット、中世～江戸 噴砂／弥生（中）弥生土器、古代土師 器、古代土錘、中世土師器、中世珠 洲、江戸唐津
森(2010031)	森1丁目	個人住宅建築	287.45	弥生溝／弥生土器
高来(2010045)	浜黒崎	市道浜黒崎7号線整備 検討に伴う埋設物調査	157.5	縄文（後）溝状遺構、縄文（後）土 坑、不明土坑、谷地形／縄文（後）縄 文土器、縄文（後）磨製石斧片、弥生 土器、古代須恵器、石核

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	分譲宅地造成	498	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	下水道水樋管設備改良工事	4.61	遺跡なし
東老田 I (2010085)	東老田	個人住宅建築	217.91	古代須恵器
願海寺城跡 (2010091)	願海寺字水口	ガソリンスタンド建築	1,880.32	遺跡なし
願海寺城跡 (2010091)	願海寺	個人住宅建築	142.39	遺跡なし
吉作(2010111)	住吉	個人住宅建築	467	平安灰原、平安土坑、平安溝／縄文土器、縄文剥片石器、平安須恵器、平安土師器、平安窯体片
吉作(2010111) *	住吉	個人住宅建築に伴う造成	10.8	縄文土坑、平安土坑、近代土坑、近代溝／縄文（後）縄文土器、平安須恵器、平安土師器、近代瓦、近代瓦窯道具
追分茶屋 (2010138) *	吳羽町	駐車場造成	18	遺跡なし
山寺谷 II (2010142)	吳羽町字山寺谷	個人住宅建築	137	遺跡なし
山寺谷 II (2010142)	吳羽町字一ツ塚	宅地造成	868.23	古代竪穴建物、古代土坑、古代柱穴ピット、古代溝／奈良土師器、奈良須恵器、奈良土管、平安土師器、平安須恵器、平安内黒土師器、不明陶器
山寺谷 II (2010142)	吳羽町字一ツ塚	宅地造成	374.68	平安土坑／平安須恵器、平安輪羽口
吳羽本町 (2010147)	吳羽町字一ツ塚	埋設物調査	171	遺跡なし
吳羽コウヅバラ (2010149)	北代	個人住宅建築	212.3	遺跡なし
追分茶屋祝ノ松 (2010160) *	追分茶屋	個人住宅建築に伴う造成	1,219.49	遺跡なし
北代布口 II (2010181)	北代字布口	集合住宅建築	879	古代土師器
北代布口 II (2010181)	北代	集合住宅建築	1,061	遺跡なし
吳羽富田町 (2010182)	北代字布口	集合住宅建築	827.96	遺跡なし
吳羽富田町 (2010182)	北代	店舗兼住宅建築	240.72	遺跡なし
北代中尾 (2010183)	北代	個人住宅建築	598	遺跡なし
北代シャクドジ (2010185)	北代	個人住宅建築	232.07	遺跡なし
北代中谷 (2010199)	北代	個人住宅建築	260.86	遺跡なし
北代(2010207)	北代字大畑	個人住宅建築	752.84	遺跡なし
百塚住吉 (2010232)	宮尾	個人住宅建築	491.45	遺跡なし
百塚住吉D (2010235)	寺島	農業用倉庫建築	62.77	平安土師器
百塚住吉D (2010235)	寺島	駐車場造成	939.89	平安溝、平安土坑、平安柱穴／平安土師器、平安須恵器、近代陶器、不明土師器
百塚住吉D (2010235) *	寺島	農業用倉庫建築	62.77	古代溝／古代土師器、古代須恵器、不明釘
犬島(2010243) *	豊丘町	豊田処理分区豊島町地区下水管改築工事	37	遺跡なし
豊田大塚・中吉原 (2010246)	豊田本町3丁目	集合住宅建築	1,036	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁目字仕官割	集合住宅建築	3,076.2	古代土師器、中世土師器、近代陶器
下富居(2010250)	下富居1丁目字勝膳割	事務所建築	171.21	遺跡なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
中富居(2010251)	上飯野字正源田割	分譲宅地造成	4,139	弥生～古代溝、古代溝／弥生土器、古墳土師器、古代土師器、古代須恵器、古代墨書き土器、古代羽口、中世土師器、中世珠洲、中世古瀬戸天目、中世白磁、江戸越中瀬戸、不明陶磁器
上富居(2010252)	上富居2丁目	駐車場・資材置場造成	1,922	中世八尾
飯野小百茹 (2010253)	飯野字早稻田割	豊田新屋立体道路事業	4,500	江戸越中瀬戸
水橋二杉 (2010262) *	水橋二杉	市道水橋二杉6号線改良工事	80	江戸越中瀬戸、不明二枚貝
水橋入部 (2010263)	水橋二杉	埋設物調査	2,987	不明溝／弥生土器、中世土師器、不明鉄滓
新堀西(2010274)	三郷	工場建築	270	遺跡なし
水橋金広・中馬場 (2010286) *	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線改良工事	100	古代ピット、不明土坑、不明ピット／古代土師器
住吉南II (2010358)	住吉	個人住宅建築	431.46	不明溝／なし
安田城跡 (2010427) *	婦中町安田	電柱建替	0.96	遺跡なし
友坂(2010429) *	婦中町下条	個人住宅増改修工事	55.58	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町下条	駐車場・資材置場造成	1,476	不明溝／古代土師器
友坂(2010429)	婦中町友坂	農機具格納庫建築	182	古代須恵器
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	451.91	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	529.57	古代ピット、古代土坑、古代溝／古代須恵器、古代土師器、江戸越中瀬戸、江戸唐津、不明鉄滓
友坂(2010429) *	婦中町友坂	個人住宅建築	21.5	古代ピット、古代土坑／古代須恵器、古代土師器、不明鉄滓、不明轆羽口
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	334.72	古代竪穴建物、古代ピット、古代土坑、中世堀／古代須恵器、古代土師器、古代轆羽口、古代鉄滓、古代土鍤、中世土師器、中世八尾
惣野I(2010430)	婦中町友坂字合田	個人住宅建築	372.67	遺跡なし
寺町向田 (2010435)	寺町字大平下	個人住宅建築	407	遺跡なし
大峪城跡 (2010439)	五福字城ノ下	集合住宅建築	476.58	遺跡なし
大峪城跡 (2010439) *	五福字城	携帯電話基地局設置	4	遺跡なし
富山城跡 (2010442) *	本丸	城址公園車止め修繕	0.5	遺跡なし
千石町(2010444)	千石町4丁目	賃貸住宅建築	884.29	弥生溝、中世溝、不明溝／弥生土器、中世土師器、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器、近世覗貝、近代陶磁器
千石町(2010444)	千石町5丁目	個人住宅建築	330.14	近代土坑／近代陶磁器
千石町(2010444)	千石町5丁目	個人住宅建築	256.76	近世土坑、近代土坑／近世陶磁器、近代陶磁器
千石町(2010444)	千石町5丁目	建壳住宅建築	184.96	近世陶磁器、近代陶磁器
千石町(2010444) *	千石町	集合住宅建築	4.05	中世溝／中世土師器
大泉(2010448)	大泉中町	集合住宅建築	1,115	遺跡なし
新庄城跡 (2010449)	新庄町1丁目	個人住宅建築	762.26	不明窯
下邑東(2010543)	婦中町羽根	個人住宅建築	207.36	遺跡なし
鶴坂寺跡 (2010548)	婦中町鶴坂	個人住宅建築	230.4	自然流路を埋立てた跡／近代擂鉢、近代陶磁器、不明鉄滓、不明釘
黒瀬大屋 (2010549)	黒瀬字大屋割	事務所建築	765	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)	黒崎	個人住宅建築	152.16	江戸陶磁器
黒崎種田 (2010550)	八日町	墓石展示場造成	90.12	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)	黒崎	個人住宅建築	100	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)	黒崎	駐車場造成	348	遺跡なし
黒崎種田 (2010550)	黒崎	宅地造成	913	遺跡なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
八日町(2010551)	八日町	倉庫建築	345.55	遺跡なし
山室西田 (2010559)	山室字西田割	共同住宅建築	987.04	中世土師器
山室東田 (2010560)	太田	宅地造成	481	遺跡なし
山室東田 (2010560)	山室字東田割	宅地造成	4,500	不明溝、弥生～平安河川跡、近代流路 ／弥生（終）弥生土器、平安土師器、 平安須恵器
本郷椎木 (2010561)	下堀神田割	埋設物調査	264	遺跡なし
本郷椎木 (2010561)	本郷町	分譲宅地造成	1,622	古代須恵器、中世土師器、不明陶器
上新保(2010564)	上新保字塚田割、 上新保字三俵田割	個人住宅建築	158.81	遺跡なし
太田中田 I (2010567)	太田	個人住宅建築	395	古代溝、鎌倉溝、中世土坑／古代土師 器、古代須恵器、鎌倉土師器、中世珠 洲、中世土錘、中世鉄滓、不明陶器、 不明石材
太田中田 I (2010567) *	太田	個人住宅建築に伴う造 成	330.57	中世土坑、不明土坑／古代～中世土師 器、中世青磁、不明石
太田中田 I (2010567) *	太田	個人住宅建築	106.99	古代土師器、中世土師器
太田中田 II (2010568)	太田字中田	公園造成	1,058	遺跡なし
千里B(2010632)	婦中町千里	倉庫新築	47.5	遺跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	個人住宅建築	364.21	遺跡なし
千里E(2010634)	婦中町千里	個人住宅建築	436.8	遺跡なし
南部I(2010636)	婦中町高日附	個人住宅建築	456.18	江戸越中瀬戸、江戸唐津
任海宮田 (2010654) *	任海	個人住宅建築	70	古代土師器、古代須恵器、不明土師 器、不明陶磁器
栗山A(2010668) *	栗山字沢下割	電柱新設	0.96	古代土師器
栗山A(2010668) *	栗山	個人住宅建築に伴う伐 根	863	遺跡なし
栗山A(2010668)	栗山	個人住宅建築	863.45	平安堅穴建物、平安ピット、平安溝／ 縄文土器、平安土師器、平安須恵器、 江戸越中瀬戸
栗山A(2010668) *	栗山	個人住宅建築	27	古代ピット／古代土師器、中世五輪塔
栗山A(2010668)	栗山字沢下割	個人住宅建築	500	縄文（晩）土坑、縄文（晩）溝、平安 溝、中世溝／縄文（晩）縄文土器、縄 文（晩）叩石、縄文（晩）石材、平安 土師器、平安須恵器、鎌倉土師器、鎌 倉八尾焼
下熊野(2010672) *	安養寺	佐田川改良工事	50	遺跡なし
石田(2010677) *	経力	住宅部分の増築	24.17	遺跡なし
上野鍋田 (2010680)	上野	駐車場造成	11,300	縄文（晩）溝、古代ピット、古代川 跡、中世ピット、中世土坑、中世溝、 江戸墓、江戸川跡、江戸土坑／縄文 （晩）縄文土器、弥生土器、古代須 恵器、古代土師器、古代製塩土器、中世 かわらけ、中世珠洲、中世八尾、中世 加賀、中世瀬戸美濃、江戸越中瀬戸、 江戸青花、江戸伊万里、江戸唐津、近 世陶磁器、五輪塔、台石
小杉古屋敷 (2010690)	布市	駐車場造成	474	中世土坑、江戸溝、江戸土坑／中世青 磁、中世瀬戸天目、江戸越中瀬戸、江 戸鉄製品、不明鉄滓
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	207.93	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	202.04	遺跡なし
閔(2010699) *	閔	閔地区配水管布設工事	105	遺跡なし
開発覚田 (2010700)	開発	個人住宅建築	388.93	遺跡なし
西番中割B (2010708)	西番字南割	防災拠点施設建築	2,449	不明流路／中世土師器皿
西番中割B (2010708)	西野番字中割	個人住宅建築	120.62	自然流路／なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
館本郷II (2010737)	八尾町高善寺	個人住宅建築	578.01	近世陶器
館本郷II (2010737)	八尾町高善寺	納屋建築	31.67	遺跡なし
水谷(2010740)	八尾町水谷	個人住宅建築	387.16	遺跡なし
水谷(2010740)	八尾町水谷	個人住宅建築	274.66	遺跡なし
水谷(2010740)	八尾町水谷字縫殿	個人住宅建築	389.02	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田字古国屋	個人住宅建築	438	不明溝、不明土坑／近代陶器
黒田(2010744)	八尾町黒田	農機具倉庫建築	758.31	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	100.05	江戸越中丸山焼、江戸伊万里焼
大杉II(2010747)	八尾町大杉	個人住宅建築	224.26	縄文(中) 縄文土器
塩(2010767)	塩	農機具格納庫建築	279	不明溝／なし
上熊野城跡 (2010768)	上熊野	個人住宅増築	605.75	戦国堀／戦国かわらけ
大井(2010773) *	大井	市道月岡大井線改良工事	40	遺跡なし
合田(2010777)	合田	倉庫建築	3,426.86	古代土師器
万開(2010783)	万願寺	個人住宅建築	413	遺跡なし
大山上野A (2010828)	富山市文珠寺字上野割	送電線鉄塔建替工事	169	遺跡なし
大山上野A (2010828)	富山市文珠寺字上野割	送電線鉄塔建替工事	52.81	遺跡なし
宿坊寺(2010842) *	山田宿坊	山田宿坊地区排水管布設替工事	61	遺跡なし
藏王神社 (2010851) *	八尾町福島字小早稻田	減築、リフォーム工事	5.2	遺跡なし
藏王神社 (2010851)	八尾町福島字上野	個人住宅建築	330.57	不明溝、不明土坑／なし
小長谷(2010858)	八尾町小長谷	個人住宅建築	282.05	遺跡なし
榆原(2010997) *	榆原	防災行政無線移設工事	25	縄文土坑、縄文ピット／縄文土器、縄文石皿
片掛(2011022)	片掛	消融雪設備修繕工事	27.75	遺跡なし
小糸尾萩野 (2011032)	小糸字洞田割	農機具格納庫建築	155	遺跡なし
薬師岳山頂 (2011046) *	有峰字黒部谷割外国有林	祠の再建	30	江戸奉納剣、江戸銅錢、江戸釘、近代奉納剣、昭和奉納剣、不明木材
富山城下町遺跡 主要部(2011048)	八人町	市道区画街路第3307号線外1線改良工事	372	近世石組、近代水路／江戸陶磁器、江戸瓦、近代陶磁器、近代動物遺存体、近世～近代木製品
稻荷砦跡 (2011059)	館出町2丁目	個人住宅建築	250.93	不明溝、不明土坑／江戸越中丸山、江戸磁器、不明陶器
稻荷砦跡 (2011059)	館出町2丁目	共同住宅建築	1069.51	遺跡なし
小長沢鎌蓋 (2011060)	婦中町小長沢	穀物乾燥施設倉庫建築	2,773	弥生溝、古代溝／弥生土器、古代土器、古代須恵器
計136件(うち 工事立会*29件)			98,003.35	

(3) 令和3年度補遺(3月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
大塚(2010017)	大塚字鳥田	個人住宅建築	927.61	江戸土坑、江戸溝／江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸陶磁器
宮町(2010053) *	宮町	針原幹線水管布設替工事	150	中世堀、中世溝、中世土坑、中世ピット、中世井戸／弥生土器、古代土器、中世土器、中世八尾、中世瀬戸美濃、中世砥石
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂新道6号線改良工事	37	遺跡なし
山寺谷II (2010142)	吳羽町一ツ塚	個人住宅建築	198.84	遺跡なし
飯野小百茹 (2010253) *	新屋字大豆焼割	携帯電話基地局設置	2.25	遺跡なし
大峪城跡 (2010439)	五福字城	駐車場造成	2,000	戦国堀／近代陶器

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
羽根下立 (2010440)	羽根	個人住宅建築	403	不明溝／不明土師器
窪本町(2010446)	窪本町字笹山割	個人住宅建築	280	遺跡なし
上新保(2010564) *	上新保字三俵田割	集合住宅建築	999.95	不明溝／不明陶磁器
悪王寺(2010683)	若竹町 6 丁目	個人住宅建築	214.36	自然流路／なし
西ノ森経塚 (2010710) *	西番字南割	文化財案内看板再設置 業務委託	0.18	遺跡なし
新村(2010761) *	新村	新村導水場導水管閉塞 工事	5	昭和磁器
大山上野A (2010828)	大山上野	上滝線鉄塔建替工事	400	遺跡なし
八木山大門 (2010885)	八木山	駐車場・資材置場造成	770	遺跡なし

令和3年度の総計(4~3月)は144件(うち工事立会*40件)

2 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は1,044ヶ所、総面積は約73.5k m²です(令和5年2月末現在)。これは市域1,241.70k m²の約5.9%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 令和4年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等(令和4年3月～令和5年2月)

No.	遺跡名(遺跡番号)	面積(m ²)	変更内容
1	浜黒崎町畠遺跡(2010014)	95,259	試掘により南側範囲拡大
2	四方荒屋遺跡(2010026)	104,468	試掘により南側範囲縮小
3	四方背戸割遺跡(2010027)	121,773	試掘により北側範囲拡大
4	浜黒崎飯田遺跡(2010041)	79,581	県試掘により南側範囲拡大、 東側範囲縮小
5	浜黒崎野田Ⅱ遺跡(2010043)	36,615	県試掘により西側範囲拡大、 東側範囲縮小
6	浜黒崎悪地遺跡(2010044)	126,743	県試掘により北側範囲拡大
7	中富居遺跡(2010251)	53,690	試掘により西・東側範囲縮小
8	百塚住吉D遺跡(2010285)	131,580	試掘により北側範囲拡大
9	八町A遺跡(2010216)	—	試掘により登録抹消
10	八町B遺跡(2010217)	—	試掘により登録抹消
11	大泉遺跡(2010448)	—	試掘により登録抹消

(2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は、富山市ホームページ「インフォマップとやま」で史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲や名称、所在地等の概要が閲覧できます。建築・造成工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。

また、遺跡地図は調査によって遺跡範囲を随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は「インフォマップとやま」検索→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。

閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。



スマートフォン版は
こちら

3 史跡の保護・管理

(1) 北代縄文広場

①管 理

A 管理運営委託等

a 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人が広場の管理等を行い、富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が管理等の手伝いや、屋外展示の解説、縄文土器づくり（野焼きを含む）をはじめとした体験学習の手伝いなどを行いました。

b 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種イベントの開催を見直しました。体験学習や団体予約の受付を再開し、展示施設内の入館者数を、北代縄文館展示室は15人程度、復原竪穴住居は4人程度、復原高床建物は1人としました。

c 環境整備

復原竪穴住居の燻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、高木の剪定を行いました。

B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

広場管理運営補助（体験学習の準備・粘土練り）

速星中学校（3人） 令和4年7月6日

C その他

「越中富山ふるさとチャレンジぐるっと富山ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和4年7月1日～令和4年11月30日

②ミニ企画展

	テーマ	期間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1	栗山コレクションの土偶・土製品	令和4年7月12日～令和5年1月22日	北代遺跡出土：土偶 他	3,235人	新型コロナウイルス感染症 感染防止のため中止
2	大石棒展	令和5年1月24日～7月17日	妙川寺遺跡：石棒 他	366人 (2月末現在)	

③普及行事・講座

A 北代縄文考古楽講座

令和4年9月3日

「北代遺跡と呉羽の縄文ムラ」

講師：町田賢一氏（公益財団法人富山県文化振興財団文化財調査課副主幹） 26人参加

B 夏休み！きただい子ども縄文教室

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

C 文化の秋の縄文土器づくり

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

④長岡地区等行事

A 長岡地区ふるさとづくり推進協議会

縄文冬まつり（世代間交流行事） 令和5年1月14日

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり 体験	縄文グッズ づくり体験	縄文コースター づくり体験
令和 2	5,959 人	0 人	5,959 人	新型コロナウイルス感染症 感染防止のため中止		
令和 3	6,161 人	366 人	6,527 人			
令和 4 (令和 5 年 2 月末現在)	5,553 人	461 人	6,014 人	60 人	30 人	5 人

(参考) 平成 11 年 4 月～令和 5 年 2 月末の来場者数累計 211,662 人

(2) 安田城跡歴史の広場

①管 理

A 管理等

a 管理

管理人 1 人が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内等を行いました。

b 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種イベントの開催を見直しました。また、展示施設内の入館者数を、安田城跡資料館は 24 人程度、土壙展示施設は 3 人程度としました。

C 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。

この他、資料館男子トイレ様式便器スパッド取替や、室内灯修繕、駐車場外灯修繕を行いました。

B その他

「越中富山ふるさとチャレンジぐるっと富山ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。 令和 4 年 7 月 1 日～令和 4 年 11 月 30 日

②ミニ企画展

	テーマ	期間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1	ア・MEIZI・ングな富山のレンガ	令和 4 年 3 月 18 日～7 月 18 日	相生町遺跡出土： 耐火レンガ 他	10,660 人	新型コロナウイルス感染症 感染防止のため中止
2	ざくざく・ドキドキ・まいぞう銭 とやまお城探検隊 Part1（富山市南西部）	令和 4 年 7 月 21 日～12 月 4 日	八尾町高善寺地内出土：埋蔵銭 北日本新聞： とやまお城探検隊掲載記事	4,726 人	

③普及行事・講座

A 夏休み子ども歴史講座

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

b 自然講座

令和 4 年 5 月 31 日

「堀の水生植物の新しい楽しみ方～外来種のスイレン、在来種のカキツバタ～」

講師：中田政司氏（富山県中央植物園長） 18 人参加

C 歴史講座

令和 4 年 7 月 9 日

「安田城跡発掘調査の思い出」 講師：久々忠義氏（富山考古学会副会長） 24 人参加

④朝日地区等行事

A 安田城月見の宴

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計
令和 2	15,782 人	27 人	15,809 人
令和 3	17,060 人	0 人	17,060 人
令和 4(令和 5 年 2 月末現在)	16,500 人	67 人	16,567 人

(参考) 平成 5 年度～令和 5 年 2 月末の累計来場者数 322,751 人

(3) 史跡王塚・千坊山遺跡群

①維持・管理

A 倒木処理・樹木伐採

千坊山遺跡では、倒木等の転落による事故などを未然に防止するためや、積雪のため倒れた樹木の伐採・搬出等を行いました。

B 除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約 60,975 m²）の除草を、公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施しました（6～11 月）。

(4) 堀 I 遺跡

①婦中熊野地区行事

A 婦中熊野地区ふるさとづくり推進協議会

令和 5 年婦中熊野地区左義長 令和 5 年 1 月 15 日（日）

(5) 史跡等の巡視及び管理

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡、埋蔵文化財等の巡視。

安田城跡、北代遺跡、王塚・千坊山遺跡群、直坂遺跡、金草第一古窯跡、猪谷関跡、東黒牧上野遺跡、越中丸山焼陶窯跡、堀 I 遺跡、柄谷南遺跡、面白寺跡、五輪塔、中地山城跡及び殿様馬乗石、上滝不動尊境内、題目塔と道標、五輪塔古石塔群（野尻）、五輪塔古石塔群（榆原）、伝畠山重忠墳墓、五百羅漢

②除草・環境整備

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により、下記の場所での除草や環境整備を実施しました。

堀 I 遺跡（6・7・10 月）、友坂二重不整合（6・8 月）、押上遺跡（5 月）・栗山塚（5・8 月）、古沢塚山古墳（7 月）、境野新遺跡（6・9 月）。

4 展示・普及

(1) 展示

発掘速報展 2022「発掘！呉羽丘陵」

- 会 場：安田城跡資料館
- 期 間：令和4年12月6日～令和5年5月
14日
- 展示遺跡：番神山横穴墓群、明神山遺跡、
黒崎種田遺跡

- 主な展示品：

【番神山横穴墓群】

馬具・耳環・刀子・砥石・須恵器・土師器

【明神山遺跡】

越中瀬戸・越中丸山・小杉・伊万里・瀬戸美濃
・瓦・硯・煙管・簪

【黒崎種田遺跡】

土師器・須恵器・製塙土器・二彩陶器・灰釉陶器・綠釉陶器・青磁・白磁・軟質陶器

- 入館者数：1,564人（令和5年2月末時点）

- 記念講演会／発掘報告／展示解説会 令和5年3月11日

記念講演会 「富山藩と呉羽山の深い関係」 講師：武内淑子氏（富山市郷土史研究会代表）
明神山遺跡発掘報告・展示解説 講師：野垣好史（埋蔵文化財センター主査学芸員）



発掘速報展の展示状況

(2) 関係施設の企画展

①富山市考古資料館（民俗民芸村所管）

テーマ	期間	主な展示品	来館者数
企画展「横穴墓の世界」	令和4年7月16日～11月23日	番神山横穴墓群出土遺物 金屋陣の穴横穴墓群出土遺物	1,951人

②富山県埋蔵文化財センターとの共催

テーマ	期間	主な展示品
令和4年度 「市町村連携発掘速報展」	令和5年2月4日～4月2日	黒崎種田遺跡（令和元年度調査）出土 陶磁器・木製品（漆器・曲物・編み物・下駄等）・石製品（砥石・碁石・火打石等）・ 金属製品（切羽・刀子鞘等）

(3) 講 座

①富山市民大学（富山市民学習センター主催）

道・未知・ミチの考古学

回	講 師	学習題	開催日
1	鹿島昌也主幹学芸員	戦前酒盃の流通 —美濃九谷と幻の東京五輪記念盃を例に—	5月20日
2	鹿島昌也主幹学芸員	文明開化の道—西洋産陶磁器とレンガから—	6月3日
3	野垣好史主査学芸員	近世北陸道と呉羽丘陵	6月17日
4	堀沢祐一所長	古代道路とまじない	7月1日
5	近藤顕子主幹学芸員	馬の来た道、行く道	7月15日
6	泉田侑希学芸員	やきものと古道—律令体制を支えたものたち—	9月2日
7	細辻嘉門専門学芸員	日本海側の弥生人—四隅突出墳が伝わった道—	9月16日
8	野垣好史主査学芸員	横穴墓の世界	10月7日
9	納屋内高史学芸員	動物と貝のミチ	10月21日
10	堀内大介専門学芸員	石器石材の道—海を渡る、陸を渡る—	11月4日

生活文化の歴史（食・住の文化史）

回	講 師	学習題	開催月日
2	納屋内高史学芸員	科学の目で見る古代の食文化	5月 26日
3	堀内大介専門学芸員	考古資料にみる食文化の変遷	6月 9日
8	細辻嘉門専門学芸員	古代～中世の住文化—集落と社寺の建物—	10月 13日
9	鹿島昌也主幹学芸員	近世富山城下町の暮らし—武家地と町人地—	10月 27日
10	堀沢祐一所長	縄文から古墳時代のすまい考	11月 24日

②市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講 師	演 題	主催者／会場	参加者数	開催日
1	野垣好史 主査学芸員	番神山横穴墓群／明 神山遺跡	吳羽丘陵歴史探訪と健康 つくりの会／豊栄稻荷神社	22	4月 9日
2	堀内大介 専門学芸員	堀川地区周辺の遺跡 紹介	富山市公連第5ブロック協 議会／堀川公民館	30	5月 18日
3	堀内大介 専門学芸員	婦中山田地域の遺跡 ・史跡	婦中山田地域ふるさとづく り推進連絡協議会、婦中山 田地域公民館連絡協議会／ 婦中ふれあい館	25	7月 1日
4	堀内大介 専門学芸員	四方背戸割遺跡・四 方荒屋遺跡発掘現場 現地見学	富山市四方小学校／四方荒 屋遺跡・四方背戸割遺跡発 掘現場	42	10月 26日
5	野垣好史 主査学芸員	発掘調査の成果から 見た富山城	富山市観光協会／富山国際 会議場・富山城址公園	30	10月 27日
6	鹿島昌也 主幹学芸員	私たちの上条ふるさ と再発見	上条公民館連絡協議会／上 条公民館	29	11月 19日
7	野垣好史 主査学芸員	長岡の歴史 —長岡御廟を中心と して—	長岡地区ふるさとづくり推 進協議会／長岡公民館	30	12月 16日
8	堀内大介 専門学芸員	佐々攻めの城 —白鳥城・安田城・ 大峪城—	吳羽山観光協会／吳羽ハイ ツ	41	2月 12日
9	鹿島昌也 主幹学芸員	水橋の遺跡とお城	水橋地区公民館連絡協議会 ／水橋西部公民館	33	2月 18日
10	野垣好史 主査学芸員	富山市北部の遺跡	NPO法人いいね就労継続支 援B型事業所／同左	15	2月 25日

③その他講座

回	講 師	演 題	主催者／会場	開催日
1	野垣好史 主査学芸員	番神山横穴墓群の 最新！発掘調査成果	富山市考古資料館／民俗民芸村管理セ ンター	10月 15日

(4) その他

マスコミ取材対応

- A 毎日新聞 「民俗民芸村内の巨大防空壕について」 野垣主査学芸員 令和4年8月11日
- B 北日本新聞・朝日新聞・北陸中日新聞「安田城跡歴史の広場のスイレンについて」
細辻専門学芸員 令和4年5月26日・6月15日
- C 北日本放送・NHK富山放送局・チューリップテレビ「安田城跡歴史の広場のスイレンについて」
大野主幹学芸員・細辻専門学芸員 令和4年5月30日・6月9日・6月14日
- D 上婦負ケーブルテレビ「安田城跡歴史の広場再整備事業について」堀沢所長 令和4年6月18日
～6月24日

- E チューリップテレビ・富山テレビ「薬師堂解体に伴う薬師岳山頂遺跡の工事立会について」
鹿島主幹学芸員・野垣主査学芸員 令和4年9月29日
- F 北日本新聞・富山新聞・北陸中日新聞・毎日新聞「発掘速報展2022「発掘！呉羽丘陵」について」
鹿島主幹学芸員・野垣主査学芸員 令和4年12月7日・8日・15日
- G チューリップテレビ「発掘速報展2022「発掘！呉羽丘陵」について」 野垣主査学芸員
令和4年12月14日
- H 富山シティエフエム「発掘速報展2022「発掘！呉羽丘陵」について」 野垣主査学芸員
令和5年1月4日・11日・18日・25日
- I 北日本放送「北代縄文広場 施設・体験学習取材」堀沢所長・細辻専門学芸員 令和5年3月2日

5 刊行物

(1) 発掘調査報告書

- No.108 富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書（2022.6）
No.109 富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書（2023.3）
No.110 富山市内遺跡発掘調査概要23（2023.3）

(2) PR誌・展示図録等

- 『富山市の遺跡物語』No.24 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報（2023.3）
『北代縄文通信』第51号（2023.3）

6 活用

(1) 出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品 願海寺城」	R4.2.7 ～R5.3.31	願海寺城跡出土の遺物 10点、写真2点
2	富山市郷土博物館	特別展「富山駅123一街の 玄関口から中心へー」	R4.10.1 ～11.27	富山城下町遺跡主要部 出土の遺物3点

(2) 写真等資料掲載

- ①富山城跡の写真・図面39点 『石垣から読み解く富山城』（令和4年5月25日刊行）に掲載
②富山城跡・安田城跡・大峪城跡・新庄城跡・願海寺城跡の写真9点 『北陸の名城を歩く－富山編一』（令和4年8月刊行）に掲載
③安田城跡歴史の広場の写真1点 『完全保存版 ビジュアル日本の城1000城』（令和4年10月刊行）に掲載
④水橋金広・中馬場遺跡出土双六盤写真1点 出雲弥生の森博物館ギャラリー展II「いにしえのボードゲーム—双六・樗蒲(かりうち)・囲碁・将棋—」で展示
⑤北代縄文広場写真2点・縄文土器写真1点 JR西日本・Yahoo!JAPAN・全日空・TOYOTAへの観光スポット情報に使用
⑥明神山遺跡の発掘調査写真1点、出土陶磁器の集合写真1点 月刊『富山県人』令和5年1月号（令和5年1月1日刊行）に掲載
⑦打出遺跡の写真5点 『コシの古墳と地域社会』（令和5年4月25日刊行予定）に掲載

(3) 資料調査・見学等

- ①令和元年12月25日～令和5年3月31日
東京大学総合研究博物館 宮田佳樹氏 小竹貝塚出土縄文土器
②令和4年3月29日
清瀬市郷土博物館 中野光将氏 富山城跡出土煉瓦
③令和4年4月14日
東北大学大学院 佐藤亜美氏 北代遺跡・花切遺跡出土タカラガイ形土製品
④令和4年9月12日～令和4年9月14日

- 富山大学 星野佑稀氏 花切遺跡出土石棒
- ⑤令和4年10月7日 岡山市埋蔵文化財センター 田嶋正憲氏 小竹貝塚・吉作遺跡・開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡・開ヶ丘中山Ⅲ遺跡・北押川C遺跡・北押川B遺跡出土土器・骨・装身具・土偶・石製品
- ⑥令和4年10月24日 小矢部市教育委員会 大野淳也氏 開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡・北代遺跡出土土偶

7 調査研究

(1) 調査協力・共同研究

①石川県金沢城調査研究所

- 令和4年11月4日 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会 「金沢城跡（二ノ丸御殿・二ノ丸御居間先）発掘調査」の見学 野垣好史主査学芸員
- 令和5年2月9日 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会 「発掘調査から探る、本郷邸（下屋敷段階）の景観」の聴講 鹿島昌也主幹学芸員

②富加町教育委員会・関高等学校

- 令和4年7月28日 第2回郷土の偉人マンガ制作事業 富加町教育委員会・関高校合同踏査
太田本郷城跡・津毛城跡現地踏査指導 堀内大介専門学芸員

③公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課

- 令和4年5月27日、7月1日、7月30日、12月23日、1月21日、3月9日 太閤山I遺跡
整理作業指導 納屋内高史学芸員

④金沢大学資料館（松永篤知特任助教）

- 令和5年2月28日 宝町遺跡出土資料の実見 鹿島昌也主幹学芸員、納屋内高史学芸員

(2) 論文・報告・紹介 富山市内の遺跡に関するものを含む

①関係職員等

大野英子 2022.8「安田城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
鹿島昌也・納屋内高史 2022.5「古代～中世の越中におけるウマの利用実態」『日本考古学協会第88回総会』研究発表要旨

鹿島昌也 2022.7「富山県地方史研究の動向」『信濃』第74巻第7号 信濃考古学会

鹿島昌也 2022.8「太田本郷城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館

鹿島昌也 2023.3「遺跡からみた蜷川館の成立-宮道・蜷川氏の拠点を辿って」『富山史壇』200号記念号 越中史壇会

鹿島昌也・仲あづみ・成瀬瞳 2023.3「八尾町高善寺地内出土の埋蔵錢について」『富山市の遺跡物語』No.24 富山市埋蔵文化財センター

鹿島昌也 2023.3「汽車土瓶について」『富山市の遺跡物語』No.24 富山市埋蔵文化財センター

泉田侑希 2022.12「柄谷南遺跡における造瓦組織の検討」令和4年度研究発表大会発表要旨
『富山史壇』第199号 越中史壇会

野垣好史 2022.8「富山城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館

野垣好史 2023.3「薬師岳山頂遺跡における祠解体に伴う工事立会」『富山市の遺跡物語』No.24 富山市埋蔵文化財センター

藤田富士夫 2022.8「富山県における行基伝承について」『明日香』第44号 明日香村文化協会
古川知明・野垣好史・萩原大輔（富山城研究会） 2021.7『石垣から読み解く富山城』桂書房

堀内大介 2022.8「大峪城」「新庄城」「願海寺城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館

堀沢祐一 2023.3「越中国の七瀬祓」『富山市の遺跡物語』No.24 富山市埋蔵文化財センター

堀沢祐一 2023.3「装身具とまじない一髪飾「櫛」を考察するー」『富山市考古資料館紀要』第42号 富山市考古資料館

三上智丈 2023.3「石棒の石材に関する一考察-「大石棒展」の展示資料を中心として-」
『富山市の遺跡物語』No.24 富山市埋蔵文化財センター

増渕佳子 2023.3「科学の目で見る装身具」『富山市考古資料館紀要』第42号

②市内遺跡を取り扱ったもの

- 朝田亜紀子 2022.12「特別展「金属から見る富山の歴史～こがね・しろがね・あかがね・くろがね・あおがね～」とておき埋文講座①」『埋文とやま』VOL. 161
- 上野章 2022.3「富山県出土の古代瓦塔を中心にして」『大境』第41号
- 大島勇 2022.4～12『ナガサワ・マンダラ絵解き』第1～10号
- 太田寿 2022.8「長沢城」「高山城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 佐伯哲也 2022.8「白鳥城」「大道城」「高嶺城」「猿倉城」「大村城」「櫻ノ木城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 佐伯哲也 2022.8「越中の城郭戦国史」「お城アラカルト「自落」は常套手段？」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 境洋子 2022.6「6年目を迎えた「MAIBUN 小竹貝塚研究プロジェクト」とておき埋文講座②」『埋文とやま』VOL. 159
- 鈴木景二 2023.3「探訪記 令和4年度 吳羽山歴史探訪ツアーオの概要と展望」『民村』富山市民俗民芸村村報 Vol. 9
- 善徳甚樹 2022.6「企画展「見て、知って！とやまヒストリー2022—富山県の旧石器時代から近現代までの歴史を発掘出土品から学ぶ！」とておき埋文講座①」『埋文とやま』VOL. 159
- 高岡徹 2022.8「富崎城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 高橋浩二・小島布由美・関口美南・橋本すず・星野佑稀・松浦悠太・水島りさ子 2022.3「富山市杉谷A遺跡出土土器の実測調査とその評価」『大境』第41号
- 高橋浩二 2023.3「富山県における弥生時代から古墳時代の玉作遺跡」『考古資料館紀要』第42号
- 野原大輔 2022.8「城生城」「中地山城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 萩原大輔 2022.8「お城アラカルト『信長公記』が記す「月岡野の戦い」」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 町田賢一 2022.6「富山県における縄文時代早期末葉から前期中葉の土器」『令和3年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課
- 町田賢一 2022.3「“福浦上層式”からみえるもの」『大境』第41号
- 松井広信 2022.3「富山県における京都系土師皿の受容と展開統計解析言語 R を利用した考古学的研究」『金沢大学考古学紀要』43号 金沢大学人文学類考古学研究室
- 松山充宏 2022.3「棟札に見る婦負の中近世」『富山史壇』第197号 越中史壇会
- 宮代栄一 2023.3「北陸地方出土馬具の研究(上)－富山県・石川県出土例を中心に－」『考古資料館紀要』第42号
- 目黒公司 2022.8「梅尾城」「論田山城」佐伯哲也編『北陸の名城を歩く 富山編』吉川弘文館
- 森喜美 2023.3「民俗民芸村サポーター研究報告 群集墳と横穴墓について」『民村』富山市民俗民芸村村報 Vol. 9

③報告書など

- 富山県埋蔵文化財センター 2022.3『県営農地整備事業浜黒崎地区埋蔵文化財試掘調査報告』
- 富山県埋蔵文化財センター 2022.3～2022.12「小竹貝塚出土品」『埋文とやま』VOL. 158～161

(3) 講演・研究発表 富山市内の遺跡に関するものを含む

- 青山晃「水橋荒町・辻ヶ堂遺跡」とやま発掘最前線—令和4年度 調査成果報告会— (公財)富山県文化振興財団 令和5年3月18日
- 鹿島昌也・納屋内高史「古代～中世の越中におけるウマの利用実態」日本考古学協会第88回総会(早稲田大学) 令和4年5月29日
- 泉田侑希「柄谷南遺跡における造瓦組織の検討」越中史壇会研究発表大会 令和4年8月21日
- 富山県埋蔵文化財センター「令和4年度小竹貝塚研究プロジェクトの成果の報告」令和4年度県民考古学講座令和5年2月19日
- 武内淑子「富山藩と吳羽山の深い関係」安田城跡資料館 記念講演会 令和5年3月11日
- 中沢道彦「富山県域の縄文晚期後葉の土器編年について」北陸貝塚研究会 令和4年12月10日
- 野垣好史「番神山横穴墓群－吳羽丘陵周辺の7世紀－」石川考古学研究会・富山考古学会合同例会 令和4年12月11日
- 野垣好史「明神山遺跡 発掘報告/展示解説」安田城跡資料館 展示解説 令和5年3月11日
- 町田賢一「北代遺跡と吳羽の縄文ムラ」北代縄文考古楽講座 令和4年9月3日

8 研修等参加

(1) 令和4年度全史協北信越地区協議会役員会

細辻専門学芸員 新潟県胎内市 令和4年7月14日～15日

(2) 令和4年度埋蔵文化財担当者会議

野垣主査学芸員 富山県埋蔵文化財センター 令和4年9月8日

(3) 令和4年度全国史跡整備市町村協議会臨時大会

細辻専門学芸員 東京都千代田区 令和4年11月15日

(4) 令和4年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会

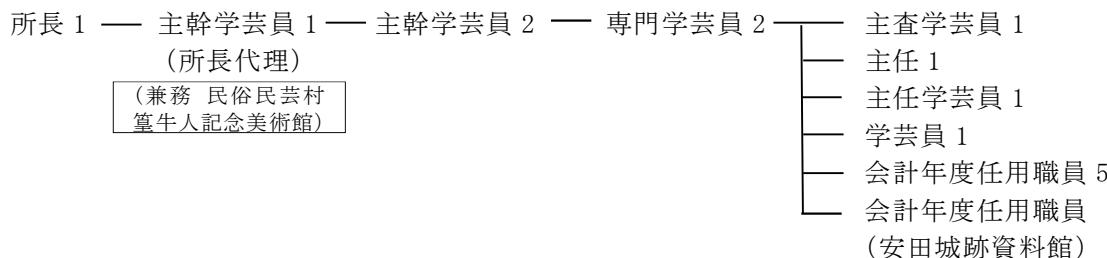
鹿島主幹学芸員 オンライン受講 令和4年2月8日・9日・10日

(5) 令和4年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会

鹿島主幹学芸員 泉田学芸員 富山県埋蔵文化財センター 令和5年2月24日

9 組織・事業費

(1) 組織(令和4年4月)



(2) 事業費(令和4年度当初) 210,830千円

①埋蔵文化財調査事業費	30,687千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	15,210千円
普及事業費	246千円
施設管理事務費	15,231千円
②文化財保護事業費	108,247千円
(内訳) 文化財保護事業費	92,154千円
施設管理事務費	16,093千円
③一般管理事務費	71,896千円

研究報告 1 石棒の石材に関する一考察

—「大石棒展」の展示資料を中心として—

三上 智丈（埋蔵文化財センター 学芸員）

はじめに

令和 5 年 1 月 23 日から 7 月 17 日までの期間、北代縄文館においてミニ企画展「大石棒展」を開催している。本展では、最大幅が 10 cm 以上となる大型石棒⁽¹⁾について、富山市内出土の 6 点を展示している。この展示品の中で 3 点⁽²⁾は、これまで石材同定がなされていなかった。

本稿では市内では資料数が多くない大型石棒について、新たに石材同定を行ってデータの蓄積を図ったうえ、石材について若干の考古学的考察を行う。なお、石材の同定は富山市科学博物館の増渕佳子主査学芸員に依頼した。方法は肉眼観察による⁽³⁾。

1 石材同定を行った石棒（表 1・写真 1～4・図 4）

表 1 が石材同定を行った石棒で、各資料の概要は以下のとおりである。石棒形状の記述は小島論文 1976・1986 に基づく。

（1）妙川寺遺跡採集石棒

妙川寺遺跡で採集されたと伝わる。石材は凝灰質砂岩である。全体形状の一端をコブ状に加工した「单頭石棒」である。頭部に鐸形状の他に 2 段目鐸の下部に半円隆帯が掘り出され、これを挟み込んで V 字状の隆帯が配される。反対面にも同文様があるので V 字隆帯は側面で連結し、ここには隆帯の小円が置かれている。縄文中期である（小島 1986）。富山市内で確認できる最長の石棒である。先端部は欠損している。

（2）春日遺跡採集石棒（亀田コレクション）

亀田正夫氏が春日遺跡で採集し、平成 16 年に本市に寄贈された石棒である。石材は凝灰質砂岩である。「印刻文や隆帯文などを持たず、上端部に鐸を巡らせている」（小島 1976・1986）形状に類似する。縄文中期と思われる。

（3）北代遺跡採集石棒（栗山コレクション）

栗山邦二氏が生前、北代遺跡で採集され、本市に寄贈された石棒である。石材は凝灰岩である。「先端部に鐸が一本めぐらせ、上端部に円柱あるいは臼状の頭部を作り出す」（小島 1976）形状に類似している。縄文中期と思われる。

（4）推定文珠寺碑田遺跡採集石棒（栗山コレクション）

富山市考古資料館所蔵の「栗山コレクション」資料である。「栗山コレクション目録」（富山市考古資料館 1987）掲載の「出土地不明石棒」7 点のうちの 1 点であるが、筆者は文珠寺碑田遺跡採集の石棒と推定する⁽⁴⁾。石材は凝灰岩⁽⁵⁾である。

2 富山県内の石棒石材について

以上のとおり、今回同定を行った大型石棒の石材は、凝灰質砂岩 2 点、凝灰岩 2 点である。凝灰岩や凝灰質砂岩は、一般に安山岩等の火成岩と比較して軟質で加工しやすい傾向がある（田中ほか 2002）⁽⁶⁾。

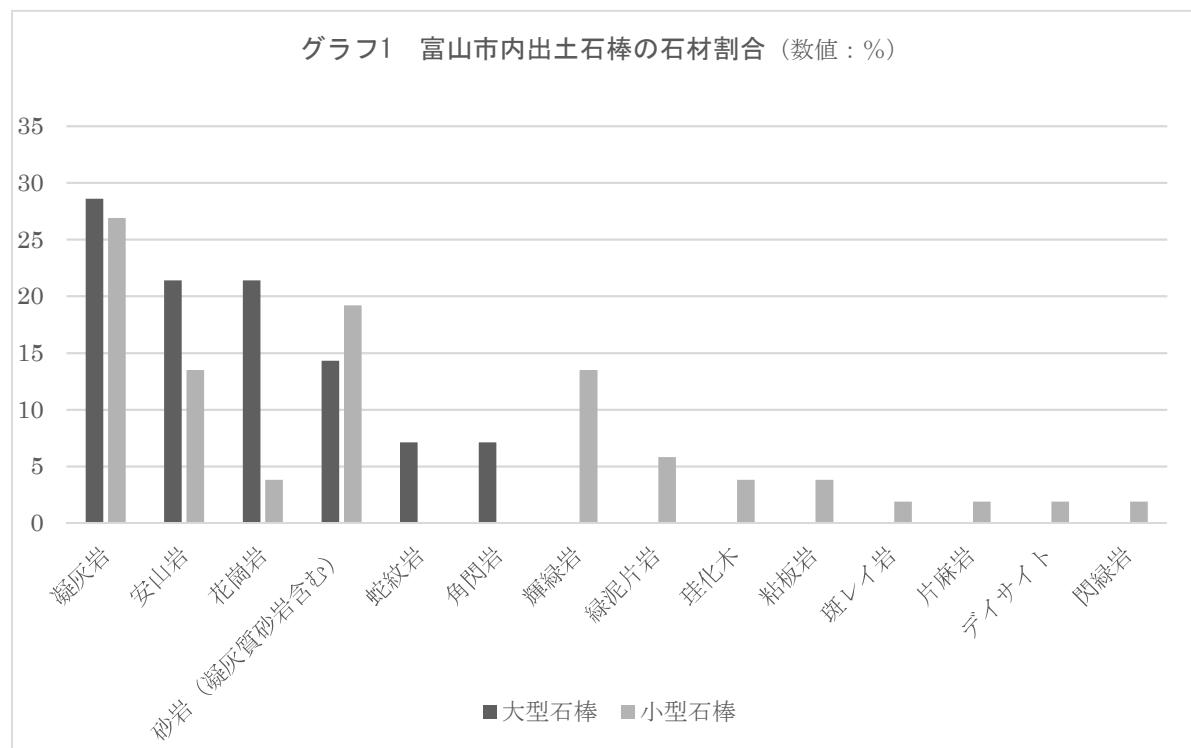
大型石棒の石材の使用傾向をみるために、富山市内で確認されている石棒の石材について検討してみた。今回同定したものを含め、幅 10cm 以上の大型石棒で石材が判明する例は 14 点あり、その石材の内訳は、凝灰岩 4 点（28.6%）、花崗岩・安山岩各 3 点（21.4%）凝灰質砂岩 2 点（14.3%）、蛇紋岩・角閃岩各 1 点（7.1%）である（グラフ 1）。

それに対して、幅10cm未満の石棒（グラフ1では便宜的に「小型石棒」とする）は計52点あり、石材の内訳は、凝灰岩14点（26.9%）、砂岩10点（19.2%）、輝緑岩・安山岩（花切遺跡出土石棒⁽⁷⁾⁽⁸⁾を含む（参考資料 写真5・図5）各7点（13.5%）、緑泥片岩3点（5.8%）、花崗岩・珪化木・粘板岩各2点（3.8%）、斑レイ岩・片麻岩・デイサイト・閃緑岩各1点（1.9%）となる。石棒の大小によって、明瞭な石材の使い分けは認めにくいか、大型石棒は凝灰岩、安山岩、花崗岩、砂岩が多く用いられている。

一方、157点の石棒が確認されている朝日町境A遺跡では、大・中型石棒⁽⁹⁾は砂岩・安山岩・凝灰岩などが多く、小型石棒は泥岩、粘板岩、砂質泥岩等、粒子の細かい堆積岩が多いことが指摘されている（富山県教委1990）。なお、境A遺跡では粘板岩の比率が富山市内出土石棒と比較して高い。これは境A遺跡において縄文後期以降出現する粘板岩製石刀の出土とも関連すると思われる。

表1 対象石棒観察表（カッコは残存値）

	遺跡	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 kg	種類	状態
1	妙川寺遺跡か	凝灰質砂岩	(94.0)	15.0	12.0	25.5	単頭	先端部 欠損
2	春日遺跡	凝灰質砂岩	(45.0)	(17.0)	(15.0)	16.1	—	頭部 残存
3	北代遺跡	凝灰岩	(20.0)	(13.0)	(12.5)	3.6	—	頭部 残存
4	推定文珠寺稗田 遺跡	凝灰岩 ⁽⁵⁾	(19.0)	(13.0)	(13.0)	2.9	—	頭部 残存



3まとめ

今回4点ではあるが大型石棒の石材を同定し、県内の石棒の使用石材も検討した。富山市内で確認された石棒については、その大小によって石材の明瞭な使い分けは認めにくいか。ただし、凝灰岩や砂岩といった堆積岩と、緻密で堅牢な安山岩や花崗岩などの火成岩が比較的多く使われているという傾向がある。この理由については、安山岩・花崗岩など一般的に硬い石材については大きく作る分、折れにくい石材である必要があること、一方で凝灰岩や砂岩は加工しやすさを重視したためと考えられる。しかし、凝灰岩や砂岩については、

大きく作る分、もろいという欠点を補うため径を太くする必要があったのではなかろうか。凝灰岩・砂岩と安山岩・花崗岩が大型石棒に使われているのは、「凝灰岩類や火成岩を用いて30cmを超える石棒とするには必然的に最大幅10cm以上と太くならざるを得ない」(長田2020)。という指摘を裏付ける傾向と考えられる。

境A遺跡では、大・中型石棒に砂岩・安山岩・凝灰岩が多く使われるという傾向が指摘されているとおり、石棒の大小によってある程度の石材の使い分けをしていた可能性がある。富山市内出土の石棒ではこうした傾向は認めにくかったが、遺跡や小地域ごとに分析することで何らかの違いが見えてくるかもしれない⁽¹⁰⁾。

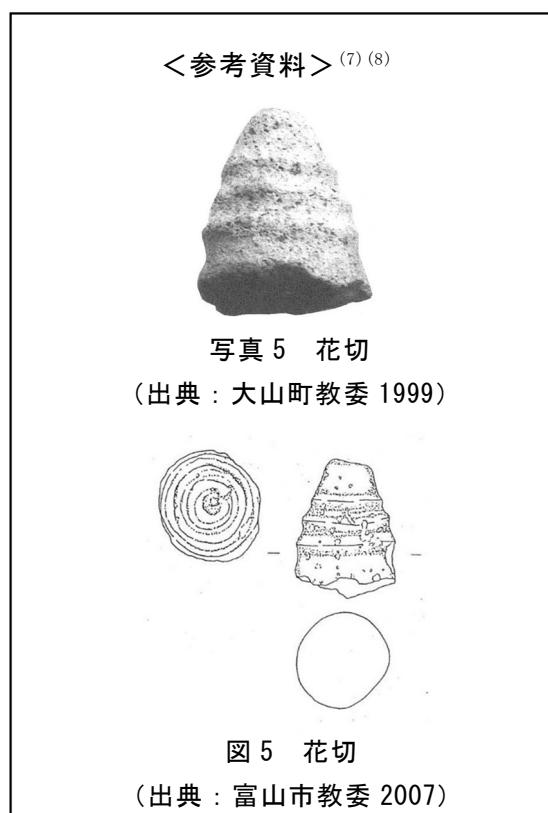
今回、石材同定を行っていただいた増渕佳子氏のおかげで、本稿をまとめることができた。末筆ながら深く感謝申し上げます。

注

- (1) 長田友也氏が便宜的な基準として示した最大幅10cm以上を本稿でも大型石棒として扱う(長田2013)。
- (2) この3点に、筆者が文珠寺碑田遺跡と推定する石棒1点を加えた計4点を対象とした。
- (3) 麻柄一志氏は、報告書における石材の記述において、調査担当者が自分の知識の範囲内で特定している場合と地質学や岩石学の専門家に鑑定を依頼している場合とではその精度・信頼度に大きな差があると指摘している(麻柄2020)。
- (4) 小島論文1976の「表1 加越能飛中期の石棒一覧表」に、栗山邦二氏の所有資料として、「大山町碑田」の石棒(No.35:縄文中期)が挙げられている。ここに掲載されている実測図が本資料と形状が類似していることから、文珠寺碑田遺跡と推定した。
- (5) 小島論文1976・1986では、石材は「安山岩」とされている。
- (6) 凝灰岩と凝灰質砂岩の硬さ比較については、同じ堆積岩類のため、古い地層ほど硬くなる傾向がある。したがって、一概にどちらが硬いとは言えない。また、砂岩も同様である。ただし、安山岩・花崗岩といった火成岩は凝灰岩と比較すると硬い(増渕氏のご教示による)。
- (7) 平成9~10年の町道栗巣野2号線改良工事に伴う花切遺跡発掘調査時に出土した縄文中期中葉後半の石棒(大山町教委1999)。本石棒の石材同定も増渕佳子氏にしていただいた。先端部しか残存せず、大型石棒かどうか判断できなかったため、本展では取り上げなかった。ここでは小型石棒として分類した。
- (8) 先端部に包有岩あり。増渕佳子氏のご教示によると、包有岩とは溶岩中に取り込まれた別の火成岩(マグマ)であり、発生割合としては1~2割程度で、一般的に見られる現象である。
- (9) 境A遺跡では、体部径70mmまでを小型、130mmまでを中型、それ以上を大型とされている。
- (10) 今回、石材産出地までの特定はしていない。一般論として、富山県内では凝灰岩・凝灰質砂岩は入手しやすく、安山岩は富山県の東西にて産出される。一方で、粘板岩については富山県内では産出されない(増渕氏のご教示による)。石材産出地の特定は今後の課題である。

参考文献

- 大沢野町史編さん委員会 2005『大沢野町史』 pp. 41 - 42
大山町教育委員会 1999『富山県大山町花切遺跡発掘調査概要一大山町埋蔵文化財調査報告9-1』
長田友也 2013「石棒の形式学的検討」『縄文時代』第24号 縄文時代文化研究会 pp. 33 - 57
長田友也 2020「IV. 縄文石器の研究方法 5 信仰に関する石器の変遷 4 石剣・石刀(刀剣型石製品)」
『考古調査ハンドブック20 縄文石器提要』ニューサイエンス社 pp. 118-121
小島俊彰 1976「加越能飛における縄文中期の石棒」『金沢美術工芸大学学報』第20号 pp. 35 - 56
小島俊彰 1986「鍔をもつ縄文中期の大型石棒」『大境』第10号 富山考古学会 pp. 25 - 40
田中琢・佐原真 2002『日本考古学事典』 三省堂
富山県教育委員会 1990『北陸自動車道遺跡調査報告—朝日町編5—境A遺跡石器編』
富山市教育委員会 2007『縄文人の精神文化—富山市出土の石棒と石冠展—』解説リーフレット
富山市考古資料館 1987『栗山コレクション目録』
富山市考古資料館 2017『栗山コレクション目録II』
麻柄一志 2020「V. 縄文石器の変遷 6 北陸地方」『縄文調査ハンドブック20 縄文石器提要』
ニューサイエンス社 pp. 414-431



図は縮尺 1/4。写真は縮尺不同

はじめに

七瀬祓とは、『日本歴史大事典』に「陰陽道の祓。平安時代から天皇や貴族の間で行われ、息災、除病、安産等を祈願して行う河臨祓を、その効力を高めようとして七ヶ所で修するもの。七瀬は賀茂川の川合と一条、土御門、近衛、中御門、大炊御門、二条の末、また御冷泉天皇の代から、川合および耳敏川、東鳴滝、松崎、石影、西鳴滝、大井河など都の周辺でも行われ、これを靈所七瀬祓という。鎌倉幕府でも1224年(元仁元)に祈雨のため由比ヶ浜等の七所で修した。」と記載されている⁽¹⁾。

金子裕之氏⁽²⁾は平城京の祭場を分析し、東堀川や大路側溝などから出土する人面墨書き土器(以下、人面土器)、木製模造品等について、「主として大祓に関わるものとすると、平城京内や京外に大祓の祓所が無数にあることになる。(中略) これは二つの要因、つまり、京の住民が各々の坊の周辺路上で大祓に参加したことと、祓の効果を上げるために同じ行為を複数回、場所を変えて行ったことが重なったためと思う。前者の正否は、今後の発掘の進展によって解決に向かうであろう。後者はのちの平安京における七瀬祓が有名で、平城京における無数の祓所はこの七瀬祓の原形と思う。私は、七瀬祓の芽生えが藤原京にあり、平城京で本格的に展開し、長岡京を経て平安京へ受け継がれたとの見通をもっている」と指摘している。

あわせて七瀬祓の地方の状況について言及され「律令国家の常として、中央で行ったことは地方の政府機関を通じてそのまま実施されることが多く、この七瀬祓についてもいえそうである。国衙のレベルでは但馬国府の推定地周辺の数カ所から人形、鳥形、斎串などの木製模造品がまとまって出土し、かつて但馬国の七瀬川と推定したことがある。(中略) このように、地方行政機関の周辺に京と同じ構造をもつ祓所が設定された可能性がある」との見解を示している。

このような、但馬国でのやり方が、越中国では高岡市の東木津遺跡周辺で確認できることを踏まえて、越中国での七瀬祓について考察してみたい。

1 東木津遺跡を含めた周辺の遺跡の出土遺物等の概要

東木津遺跡は8世紀後半~9世紀前半の布師郷関連の遺跡で、溝(SD60)などから斎串や人形などの木製祭祀遺物(以下、木製遺物)が約90点出土しており、大規模な祓の行為が行われたと考えている。

本遺跡周辺は、人面土器や木製遺物が出土している下佐野遺跡や石名瀬A遺跡、諏訪遺跡(本遺跡は木製遺物のみ)が所在している。東木津遺跡を含めて南北1.1km、東西700mの範囲に、人面土器や木製遺物が出土する溝や湿地、窪地が9カ所集中しており(図2)、このような出土状況は、他の郡域では確認できていない。またこの地域は、当時越中国府が置かれた射水郡域に該当し、国府から南西方向約9kmにあたる。

このことについて以前、筆者は「これら4遺跡を一体的と考えると、律令期祭祀遺物の出土地点は9地点になる。溝や湿地からの出土であるため、つながりが想定できるが、溝の方角などを考慮するといつかの祭祀場を形成していたことが考えられる。また、この地域は射水郡と礪波郡の郡境付近と想定でき、射水郡域において重要な場所と考えられる」と指摘したことがある⁽³⁾。

まず、東木津遺跡、下佐野遺跡、石名瀬A遺跡、諏訪遺跡の4遺跡から出土している人面土器や木製遺物などについて整理しておきたい。

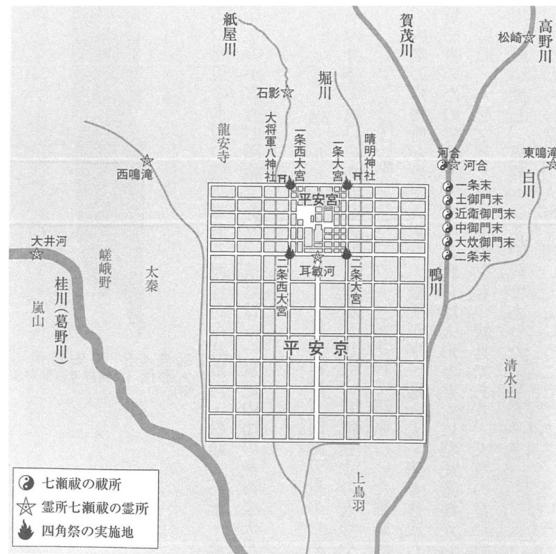


図1 平安京の祓所(山下 2010)

(1) 東木津遺跡

本遺跡は高岡市木津に所在する(図2)。古代の遺構は、掘立柱建物43棟、竪穴建物1棟、鍛冶関連遺構、柵、橋梁護岸施設を伴う溝、道路、土坑、畝状遺構などがある。道路や溝によって形成される、東西52~54m、南北24~25mの区割が想定されており、区割の方位は概ねN-45°~Wに揃えている。竪穴建物1棟は斎串などの木製品の製作拠点と報告されている。

本遺跡では、人面土器は出土しておらず、木製遺物のみ

が出土している。その内訳は斎串63点、人形21点、舟形1点、馬形3点、鳥形1点、刀形4点、琴形1点、琴柱形2点あり、木製遺物の種類が多い。これらは湿地、溝、土坑からの出土しており、出土地点は5カ所に及ぶ。

湿地(SX06)は、本遺跡の東側に広がっている。湿地の肩部分から木製遺物が出土している。堀井地区(図3の55~77)では、斎串、人形、舟形、馬形、鳥形、刀形、琴柱形の木製遺物がある。都市計画道路地区(図3の46~49)では、斎串、人形、仏教用語である「悔過」墨書き土器が出土している。

両地区から出土する人形は、地区において人形のスタイルが似ている。前者では頭部を圭頭状にし、肩部は怒り肩と下り肩があり、同一スタイルで、ほぼ同じサイズ(図3の64・65)の場合と違う(図3の55~60)場合がある。後者では肩部は撫で肩に仕上げ、頭部には刺突によって目と鼻を作り出している(図3の48・49)。サイズはほぼ同じと思われる。出土地点である程度の規格性があり、後述するが、下佐野遺跡で、同じスタイルの人形が折り重なって出土したと報告されており、人形を数枚セットで使用した痕跡と考えられることから、本遺跡においても同様の使用方法が想定できる。

溝(SD60)からは、人形7点、斎串47点、刀形2点、琴形1点出土している。SD60は幅4~8.4m、深さ88cmで、北流してSX06につながると想定されている。また、本溝が直線的に延びるとすれば、南西方向に位置する下佐野遺跡の溝(SD002)につながる可能性がある。なお、溝には橋梁護岸施設が構築されており、この部分より上流(北側)で木製遺物などが数多く出土している。人形はSX06同様に頭部等の作り方に3パターンの共通性がある(図3の36~42)。頭部に鳥帽子、目、鼻、口、顎髷が墨書きされている人形(図3の40)もある。斎串は大型で横に切り欠きをいたれた図3の35があるが、その他は両側面に切込みを入れるタイプ(図3の18~34)である。使用する斎串に規格性があると考えられる。木製遺物の他に墨書き土器95点、ヘラ書き土器61点、か帶金具、銅錢、木簡などがある。墨書き土器には「悔過」「節」、人名や地名と思われる「船木」「家万呂」「寺万呂」「達万呂」「達」「石見」「竹原」「田中」「川相」があり、建物など示す「明家」「宅」「南」「庄」「キ」「井」「=」「×」などの記号が書かれる。「キ」が52点と最多で、SD60から出土した墨書き土器の55%を占める。ヘラ書き土器は「布忍郷」があり、本遺跡の性格を示唆している。

土坑から斎串のみの出土事例が2カ所ある。1カ所はSD60の橋梁護岸施設のすぐ東側のSP04で4点(図3の50~53)みられ、柱穴が並ぶもののひとつで、それら柱穴を報告書では鳥居や門の柱穴ではないかとしている。鳥居や門を建てる際の地鎮的な意味合いがあるのかもしれない。もう1カ所は湿地際の土坑SK219からの出土(図3の54)で、土師器や須恵器が共伴する。斎串は様々な場面で使用されるようだ。

(2) 下佐野遺跡

本遺跡は高岡市佐野に所在し、東木津遺跡の南西側に位置する(図2)。8世紀後半から10世紀前半の遺

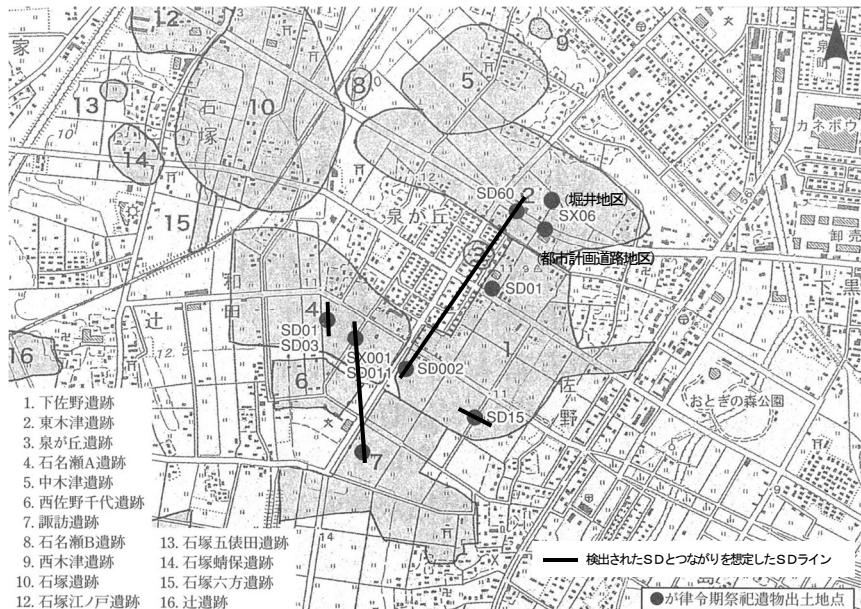


図2 東木津遺跡周辺の律令期祭祀遺物出土遺跡位置図(堀沢 2013)

跡である。本遺跡では、掘立柱建物 38 棟、柵、溝、道路状遺構、土坑、畝状遺構等が検出されている。

人面土器と木製遺物は 3 カ所から出土している。溝(SD15)から 9 世紀前半の人面土器 2 点(図 4 の 62・63)があり、口径約 20 cm、器高約 24 cm のほぼ同規格で、顔はともに三面描かれ、筆使いから、同一人物によると考えられる。木製遺物は伴っていない。溝は幅約 4m、深さ 2m の東西溝である。

溝(SD15)から西方約 150m 地点で検出された溝(SD002)から人面土器 1 点、木製遺物(図 4 の 1~60)が 136 点出土しており、大規模な祓が行われたと考えられる。木製遺物の内訳は、斎串 75 点、人形 42 点、馬形 6 点、鳥形? 1 点、舟形 11 点、陽物形 1 点となる。(報告書に掲載されている木製祭祀遺物は斎串 34 点、人形 35 点、馬形 5 点、鳥形 1 点、舟形 2 点である。) 時期は、8 世紀中頃から 9 世紀初めとされている。これら木製遺物と共に馬が描かれた「墨描土器」(図 4 の 64)が出土している。

1 遺跡での斎串の出土点数は、射水市北高木遺跡に次いで多い。報告書では 3 タイプに分類されている。A タイプ(図 4 の 32~40)は頂部を圭頭状にし、下端が尖るタイプで、両側面に上からの切込みを持つ斎串もある。B タイプ(図 4 の 41~48)は頂部を平坦に加工し、下端は一方から斜めにカットするタイプである。C タイプ(図 4 の 49~53)は角棒のタイプである。A タイプが多いようである。

人形の出土点数は県内の木製遺物を出土した遺跡で最多である。肩部は怒り肩タイプで、又部は三角形状につくり、手があるタイプの人形(図 4 の 7・9・11~15・17~21)が最も多い。長さ 63.8 cm、幅 6 cm、厚さ 0.5 cm にもなる人形(図 4 の 21)も出土している。この人形とプロポーションは同じであるが、幅が狭い人形(図 4 の 18・19)があり、東木津遺跡と同様に規格を揃えながら、サイズが違うタイプである。また、これら 4 点(図 4 の 18~21)は、図 4 の 22・23 とともに折り重なって、一括で出土したと報告されている。頭部に頭髪や眉、目、鼻、口、髭、乳首や臍が墨書きされている人形が 2 点(図 4 の 7・8)あり、筆使いから同一人物によると考えられるが、又部の作り方が違う。冠が表現される人形が 3 点(図 4 の 14~16)あるが、冠の表現方法がすべて違う。

この溝から 9 世紀末の人面土器(図 4 の 61)が出土しており、木製遺物とは時期差がある。人面土器と木製遺物はセットにならないようである。また、この人面土器は溝が埋没した後に穴を掘り、そこにほぼ正位で設置した状態で出土しており、祓というよりは、水神への供物としての意味合いが強いと考えられる。

本溝から北東方向約 200m 地点の溝状遺構(SD01)から人形(図 4 の 65)が 1 点出土しており、長さ 5 cm で、鳥帽子、眉、目、髭などが墨書きされる。墨書き土器は「西大家」「秋万呂」「富」「西」などがある。

(3) 石名瀬 A 遺跡

高岡市和田地内に所在し、8 世紀後半~9 世紀の遺跡である。本遺跡の南東部は下佐野遺跡と隣接している(図 2)。古代では、溝、窪地、畝状遺構が確認されており、人面土器と木製遺物が 2 カ所から出土している。

溝(SD011)から人面土器 5 点(図 3 の 1~5)、斎串 1 点(図 3 の 7)、人形 6 点(図 3 の 8~13)がみつかっている。溝の幅は約 3.8m、最大深度 39 cm で、南北溝で溝の方角を考慮すると諏訪遺跡の SD23 とつながる可能性がある。人面土器は、土師器小型甕や鍋を利用している。顔は 3 面、4 面、5 面のものがあり、すべて書き手は違うように見える。また、仏を描いた土器(図 3 の 1)もある。人面土器の年代は、8 世紀後葉から 9 世紀初頭とされる。人形は、怒り肩で手があるタイプが 2 点(図 3 の 8・9)あり、サイズ違いのセット関係かと思われる。また、頭部のみの出土であるが、図 3 の 10 は長さ 8.2 cm、幅 4.5 cm、図 3 の 11 は長さ 9.2 cm、幅 3 cm の大きさであり、下佐野遺跡で出土しているような大型の人形が想定できる。

なお、SD011 の北端部には東西に広がる窪地(SX001)が接している。同時期の遺構と考えられており、最大幅で約 4m、最大深度 39 cm である。斎串が 3 点(図 3 の 14~16)出土し、下端が尖るタイプ(図 3 の 14・16)、両側面に切込みが入るタイプ(図 3 の 14)が出土している。

溝(SD011)の西方約 100m に位置する溝(SD01・SD03)から土師器小型甕の人面土器(図 3 の 6)が出土している。口径は 9.7 cm。器高は 8.7 cm 以上である。両溝から出土した破片が接合関係にあり 1 点となる。木製遺物は出土していない。溝(SD01)の幅は約 17m、最大深度 1.15m で、北部分には護岸施設が設置される。SD03 は、SD01 の東側に隣接する。幅 2.8~4.3m で、深さ 40 cm である。SD01 からは「西家」の墨書き土器が出土している。

(4) 諏訪遺跡

本遺跡は、高岡市佐野地内に所在する。下佐野遺跡の南西に隣接している(図2)。古代の遺構は溝のみ検出しており、8世紀代の幅3.2~3.4mの溝(SD23)から人形1点(図3の17)と和同開珎が出土している。人面土器は出土していない。本溝は南北溝で方位は真北を向いており、形状などから規格化された区画溝と指摘されている。溝の方角を考慮すると石名瀬A遺跡のSD011につながると考えられる。

人形は、頭部から胸部分が残っており、残存部分で長さ9.9cm、幅2.8cm、厚さ3mmである。肩部は怒り肩で、頭部から肩部への作り方を見ると、射水郡域であれば北高木遺跡、礪波郡域であれば中保B遺跡の人形に類似する。墨書きではないようである。

2 まとめ

このように、8世紀後半~9世紀にかけて、東木津遺跡を含めた4遺跡で、溝などから人面土器や木製遺物が出土する地点が9カ所で確認されている。中には人面土器5点と木製遺物がセットで出土する地点や130点にも及ぶ木製遺物を確認できる地点などがあり、越中国ではかなり大規模な祓の行為が行われたと考えられる。また、礪波郡との郡境付近で、境界祭祀を行う場として射水郡にとって重要な地域にある。

当時、射水郡は国府が配置された郡域であり、これら9地点はおのおの単独で設定されたわけではなく、越中国府(北東方向約9kmに位置する)が主導し、祓の場がつくられたと想定している。このことは、金子氏が指摘しているように、都城や但馬国と同様に、越中国でも複数の祓の場を設ける七瀬祓が行われたと推定でき、都城で行われた祭祀のやり方が地域にまで広まっていることを示していると考えられる。

筆者は以前、人面土器と木製遺物のセット関係から、両者がセットで出土する場合の祓などの行為の主体は国府と郡家、木製遺物のみの場合は、郷家や駅家、津と考察したことがある⁽⁴⁾。このことから、木製遺物のみが出土する東木津遺跡は、布師郷に比定されることから、郷家レベルの祓などの行為と考えていた。しかし、東木津遺跡を含め周辺4遺跡で、祓が行われていたとすれば、祓の主体者は人面土器と木製遺物の両者を使用することを理解しており、国府もしくは郡家と想定できる。祓の規模や場所の設定を考えると、前述するように越中国府が主体者と考えられる。

越中国では、8世紀初頭から人面土器を使用するまじないが行われており、出土点数も日本海側で最大である。また、土器に描く顔も非常に丁寧に描かれるケースが多く、律令期の祭祀を忠実に受け入れていると考えられる。また、土器に顔を描かない人面土器も出土しており、都城との強い結びつきが認められる。このようなことを背景にしながら、七瀬祓が越中国でも行われることとなったのであろう。

注

- (1) 株式会社小学館 2001『日本歴史大事典3』181頁
- (2) 金子裕之 1961『平城京と祭場』『国立歴史民俗博物館研究報告第7集 共同研究「古代の祭祀と信仰」本篇』国立歴史民俗博物館 274,280頁
- (3) 堀沢祐一 2013『古代越中国の人面墨書き土器について』『高岡市万葉歴史館紀要第23号』高岡市万葉歴史館 5頁
- (4) 堀沢祐一 2003『越中国の律令祭祀具と官衙遺跡』『院文化保存論集』文化保存論集刊行会 345-347頁

文献

- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2013『下黒田遺跡 下佐野遺跡 諏訪遺跡 蔵野町東遺跡 駒形南遺跡発掘調査報告』
- 高岡市教育委員会 2000『市内遺跡調査概報X - 平成11年度、出来田南遺跡の調査他 -』
- 高岡市教育委員会 2001『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』
- 高岡市教育委員会 2007『東木津遺跡調査報告 - 市道清水町三丁目西藤平蔵線工事に伴う平成18年度の調査 -』
- 高岡市教育委員会 2010『市内遺跡調査概報XIX - 平成20年度、瑞龍寺遺跡・鎮守堂址遺跡の調査他 -』
- 高岡市教育委員会 2012『市内遺跡調査概報XXI - 平成22年度、下佐野遺跡(豊原地区)の調査他 -』
- 高岡市教育委員会 2012『石名瀬A遺跡調査報告』
- 高岡市教育委員会 2021『富山県高岡市市内遺跡調査概報30 - 令和元年度東木津遺跡の発掘調査報告他 -』
- 富山県埋蔵文化財センター 2011『富山県高岡市下佐野遺跡発掘調査報告書』、山下克明 2010『陰陽道の発見』

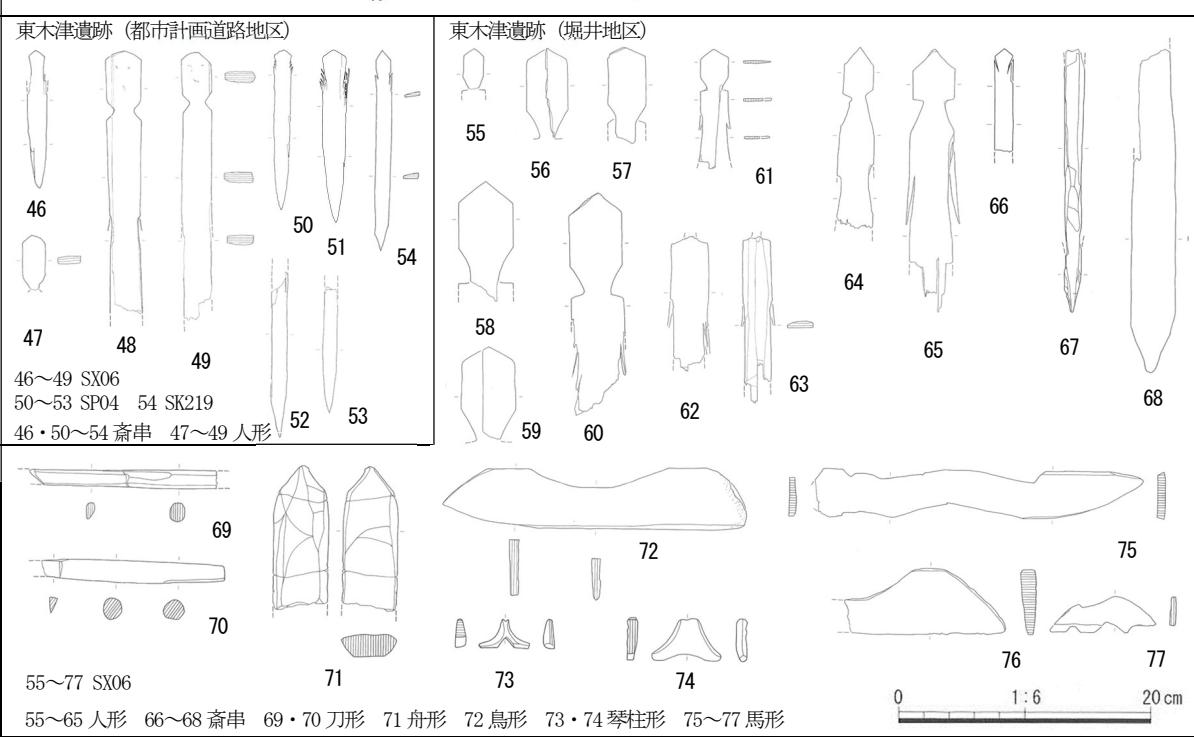
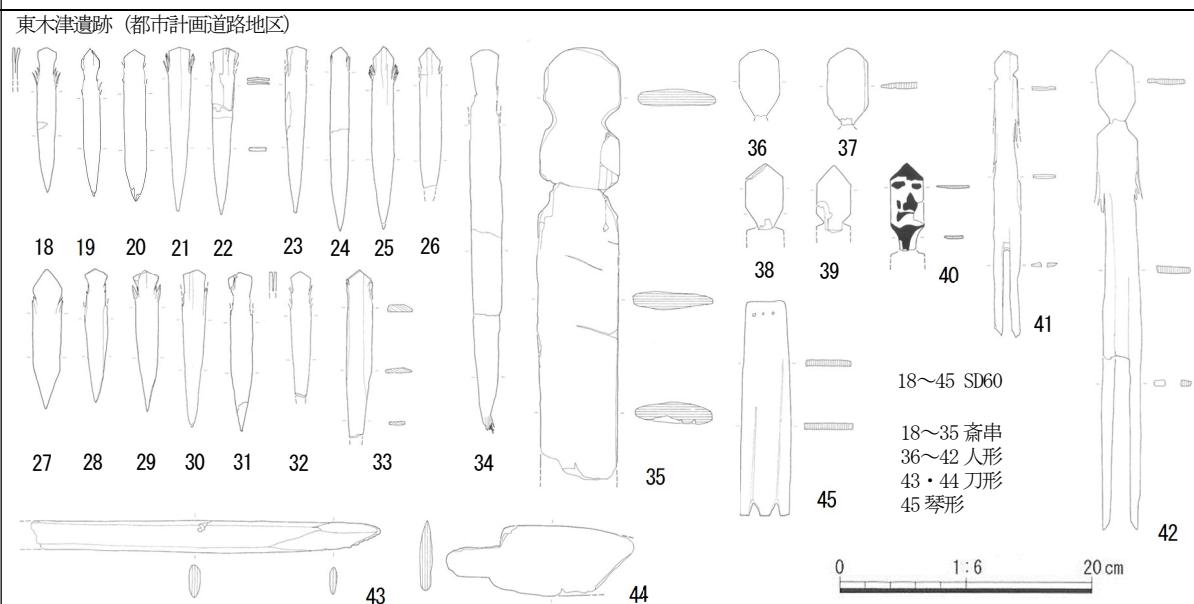
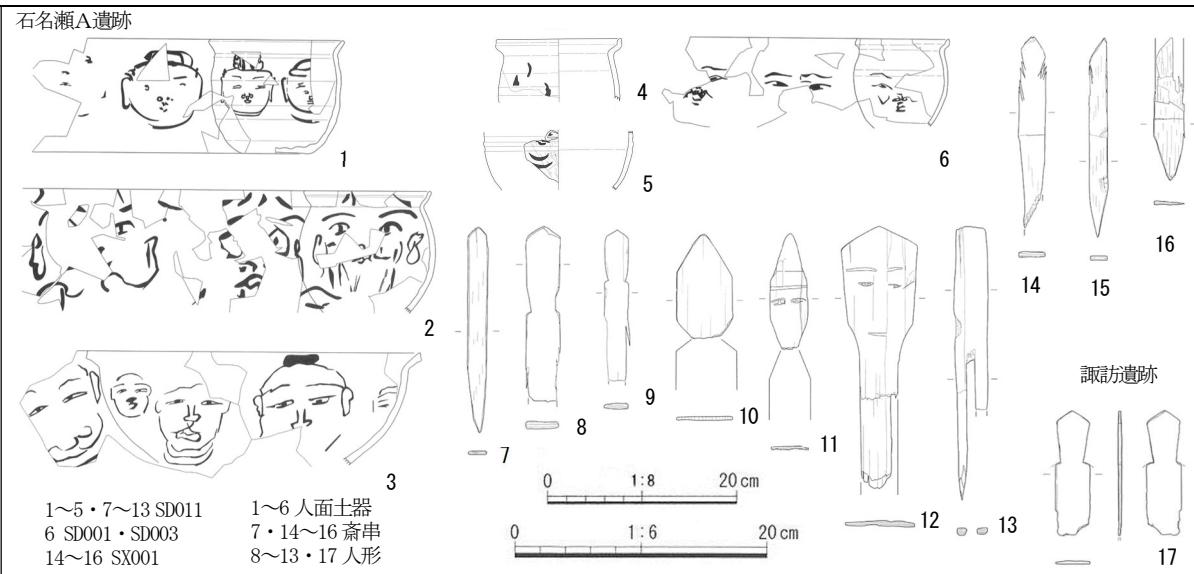


図3 石名瀬A遺跡・諏訪遺跡・東木津遺跡出土 人面土器 (1:8)、木製遺物 (1:6)

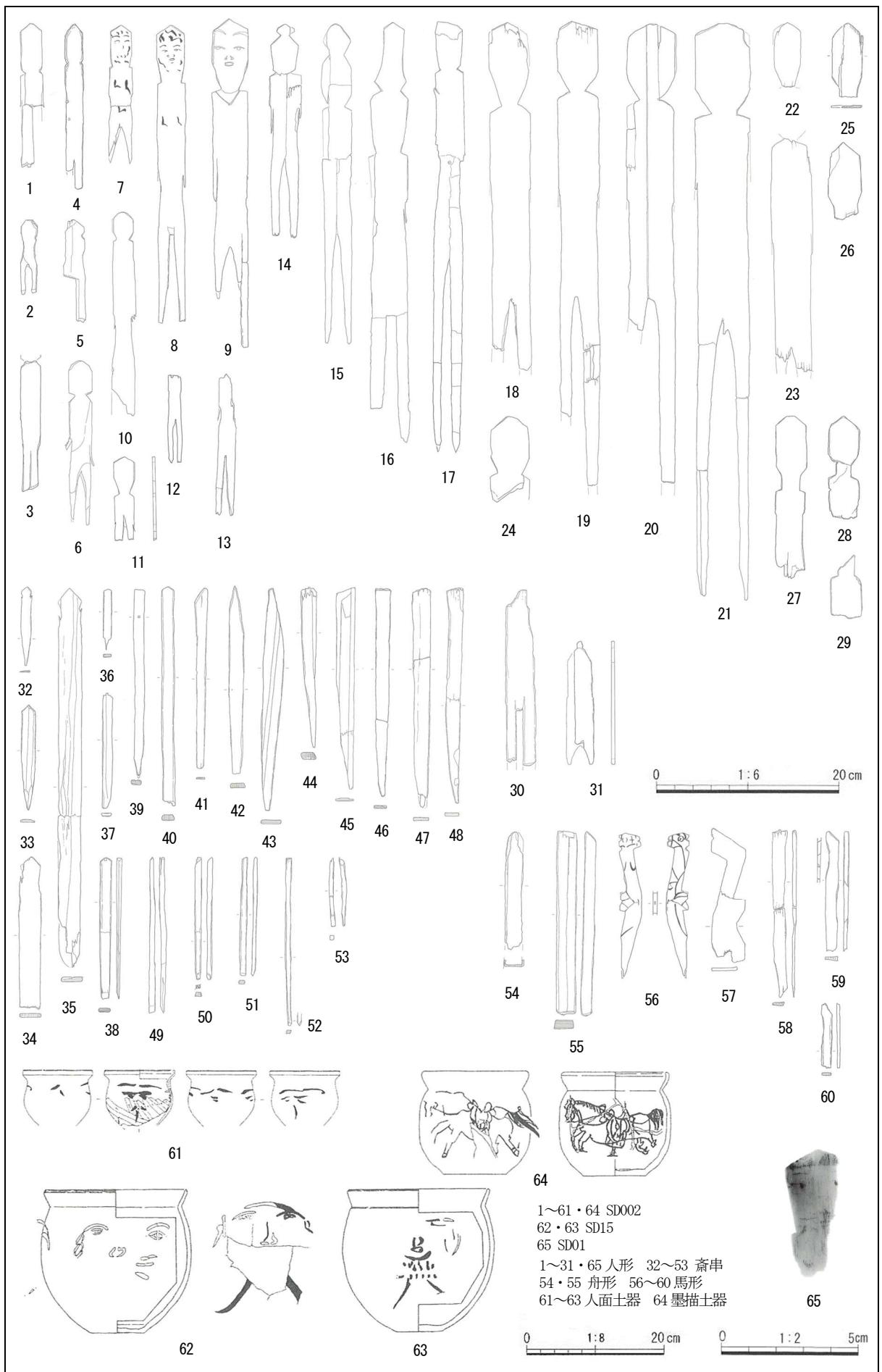


図4 下佐野遺跡出土 人面土器等 (1:8)、木製遺物 (1:6) (65のみ1:2)

研究報告3 富山市八尾町高善寺地内出土の埋蔵銭について

鹿島 昌也 成瀬 瞳 仲 あずみ

(埋蔵文化財センター主幹学芸員) (元学芸員) (学芸員)

はじめに

昭和59(1984)年の春、婦負郡八尾町(現・富山市八尾町)高善寺地内の水田ほ場整備工事中に甕に入った大量の銭貨が出土し、当時の新聞記事にも紹介された(北日本新聞昭和59年5月1日付「田んぼから古銭」など)。これまで、水田の所有者だった個人が所蔵していたが、令和4(2022)年4月に、現所有者から甕1点と銭貨を富山市に寄附の申し出があり、埋蔵文化財センターで受入れの手続きを行い、7月からのミニ企画展で展示公開した。

本稿執筆中も出土銭貨の鑄落としを行なながら銭種の判読作業を進めているが、現時点で確認できたものを紹介するとともに、富山県内における大量一括埋蔵銭の出土状況を概観し、八尾町高善寺出土埋蔵銭の意義を考察する。

1 八尾町高善寺地内出土埋蔵銭

出土した地点は、井田川左岸の沖積地上に位置し、現在の富山市立保内小学校西側に隣接する水田からである。この水田付近は、平成11(1999)年度に八尾町教育委員会が実施した分布調査で「館本郷II遺跡」として新規設定し、遺跡地図に登載されていた。平成20~21年度には経営体育成基盤整備事業(県営ほ場整備)高善寺地区に伴う試掘調査が富山市教育委員会によって実施されたが、埋蔵銭が出土した水田周辺で遺跡の所在は確認されなかった。よって、出土地点については遺跡名とせず、「八尾町高善寺地内」と呼称することにした。本来は、埋蔵銭出土地点周辺にも何らかの遺構が所在していた可能性があるが、近代以降の区画整理やほ場整備事業で削平され、地中深く埋蔵されていたものが不時発見されたのであろう。

塩田明弘氏は「富山県内における大量一括埋蔵銭集成」(塩田2002)で、この八尾町高善寺地内出土埋蔵銭を次のように紹介している。

「水田のほ場整備工事中に珠洲焼の壺に納められた銭が出土した。(中略)出土総数は不明であるが、約1万枚と推定されている。現段階では39種が確認され、最古銭は開元通宝、最新銭

No.	銭貨名	王朝	初銭年	枚数
1	開元通寶	唐	621	606
2	乾元重寶	唐	758	27
3	漢通元寶	後漢	948	1
4	周通元寶	後周	955	1
5	唐國通寶	南唐	959	4
6	宋通元寶	北宋	960	17
7	太平通寶	北宋	976	83
8	淳化元寶	北宋	990	69
9	至道元寶	北宋	995	122
10	咸平元寶	北宋	998	128
11	景德元寶	北宋	1004	151
12	祥符元寶	北宋	1009	201
13	祥符通寶	北宋	1009	92
14	天禧通寶	北宋	1017	138
15	天聖元寶	北宋	1023	311
16	明道元寶	北宋	1032	17
17	景祐元寶	北宋	1034	62
18	皇宋通寶	北宋	1038	665
19	至和元寶	北宋	1054	53
20	至和通寶	北宋	1054	29
21	嘉祐元寶	北宋	1056	40
22	嘉祐通寶	北宋	1056	88
23	治平元寶	北宋	1064	116
24	治平通寶	北宋	1064	7
25	熙寧元寶	北宋	1068	403
26	元豐通寶	北宋	1078	718
27	元祐通寶	北宋	1086	425
28	紹聖元寶	北宋	1094	192
29	元符通寶	北宋	1098	76
30	聖宋元寶	北宋	1101	218
31	大觀通寶	北宋	1107	74
32	政和通寶	北宋	1111	235
33	宣和通寶	北宋	1119	16
34	建炎通寶	南宋	1127	3
35	正隆元寶	金	1157	5
36	淳熙元寶	南宋	1174	28
37	紹熙元寶	南宋	1190	13
38	慶元通寶	南宋	1195	13
39	嘉泰通寶	南宋	1201	4
40	嘉定通寶	南宋	1208	9
41	大宋元寶	南宋	1225	1
42	紹定通寶	南宋	1228	7
43	端平元寶	南宋	1234	1
44	淳祐元寶	南宋	1241	2
45	皇宋元寶	南宋	1253	1
46	景定元寶	南宋	1260	3
47	咸淳元寶	南宋	1265	1
48	洪武通寶	明	1368	5
49	永樂通寶	明	1408	30
50	宣德通寶	明	1433	4
	判読可能			5515
	判読中(不可)			6369
	合計			11884

表1 八尾町高善寺地内出土銭貨一覧

は咸淳元宝である。埋蔵時期は 14 世紀と考えられている。発見地の近隣には常福寺（法華宗）があり、付近の地名が「館」であることからも寺院や居館との関連が考えられる。」

令和 4 年 4 月に市に寄附を受けて以降、出土銭貨の総数のカウントと銭種の判読作業を進めている。銭貨の総枚数は 11,884 枚で、現時点での判読出来たものは 50 銭種 5,515 枚である（令和 5 年 2 月時点）。現時点では全て中国で生産されたとみられる渡来銭である。

最古銭は「開元通宝」（唐銭、初鑄 621 年）で、最新銭は「宣徳通宝」（明銭、初鑄 1433 年）であることから、埋蔵時期は 15 世紀以降とみられる。最も点数が多かったのは、「元豊通宝」（北宋銭、初鑄 1078 年）で 718 枚（13.0%）、次いで「皇宋通宝」（北宋銭、初鑄 1038 年）が 665 枚（12.0%）、「開元通宝」が 606 枚（11.0%）を数える。中国の王朝別でみると、北宋銭が 4,746 枚（86.0%）と最も多く、次いで唐銭が 633 枚（11.5%）、南宋銭 86 枚（1.6%）、明銭 37 枚（0.7%）と続く。

銭貨と共に珠洲焼の壺 1 点の寄附を受けた。口縁部が欠損した状態で、残存高 35 cm、底径 12.5 cm、胴部最大幅 32 cm を測る。中学 2 年生の職場体験事業「社会に学ぶ 14 歳の挑戦」で、速星中学校生徒の協力でこの壺に何枚の銭貨が納まるか実際に銭貨を入れて数えてみたところ、7,030 枚入ることが判明した。現存する銭貨の数は 11,000 枚余りあることから、この珠洲焼 1 つでは納まりきらないことが判る。所有者家族からの聞き取りや『下高善寺集落史』によると、出土当初壺は 4 点あったとのことであるが、現時点での確認されている壺は 1 点のみで、残りの 3 点の所在は不明である。ここからは推測の域を出ないが、4 点の壺に仮に約 7 千枚ずつ入っていたとした場合、28,000 枚を超える枚数の銭貨がこの地に埋蔵されていた可能性がある。富山県内で現時点での確認されている大量一括埋蔵銭の最多数は、射水市大門町布目沢の布目沢 II 遺跡から出土した 22,938 枚である。あくまで推測であるが、これを凌駕する枚数がこの地区に埋蔵されていた可能性もある。

2 富山市内における一括埋蔵銭の出土事例

（1）各願寺前遺跡

平成 7（1995）年、婦負郡婦中町長沢（現・富山市婦中町長沢）地内で、真言宗高野山派寺院各願寺に向かう参道（農道）舗装改良工事での側溝補修時に大量の銭貨が出土し、工事関係者が当時の婦中町教育委員会に持ち込んだ。各願寺の山門から南東に 90m の地点である。各願寺は大宝元（701）年開基とされ、法相宗から天台宗に改めた後、真言宗に転じて今に至ると伝わる。

出土した銭貨は、全体の 1/3 が孔に藁紐を通して結び目をつくった縉銭（一縉 97 枚で百文とみなす）の状態であった。銭貨の総枚数は 3,266 枚で、その内判読することができたものは 51 種類、3,215 枚であった。最古銭は「開元通宝」で、最新銭は「宣徳通宝」で、最も多いのは「皇宋通宝」で 364 枚（11.2%）、次いで「元豊通宝」が 327 枚（10%）を数える。中国の王朝別で、北宋銭が 76.9% と最も多く、次いで明銭が 9.9% である。埋蔵時期は 15 世紀第 2 四半期とみられている（大野 2015）。

出土地点からは、珠洲焼の壺破片 5 点と擂鉢（蓋として利用か）破片 1 点が採取された。一括埋蔵銭出土地点に南接する宅地造成時（昭和 60 年度）の試掘調査では、柱穴や土坑等の遺構を検出し、銅製仏具や中世土師器、珠洲焼等も出土し、各願寺との関連が指摘されている。出土した銭貨が現参道の側溝部分からの出土で、当時の参道の位置と変わらなければ、銭貨は側溝中に意図的に埋められた可能性がある。また、周辺には 14~16 世紀の遺

構や遺物も確認され、錢貨埋蔵段階にも何らかの施設が存在した可能性があり、地鎮など寺院に関連した行事に伴い埋納された「埋納錢」と推測される。

(2) 上布目遺跡

昭和 47 (1972) 年、富山市上布目地内のは場整備工事中に、珠洲焼の甕に納められた錢貨がみつかった。総数は約 3,200 枚で、最古錢は「開元通宝」、最新錢は「永樂通宝」(明錢、初鑄 1408 年) で、埋蔵時期は 15 世紀以降とみられている。上布目を含む熊野川右岸の平野部は、鎌倉時代以降荘園(太田保)が成立し、それを管理する荘官などが居館を構えていたとみられる。一方周辺には江本経塚や塚根経塚、墓地もみられ、寺院との関連も推測される。なお、この昭和 47 年に出土した錢貨は、現在、県埋蔵文化財センターに所蔵されている「大沢野町出土」となっている資料のことと推測される。

平成 13 (2001) 年には、土砂採取工事に伴う発掘調査が富山市教育委員会によって実施された。墓穴とみられる土坑などから計 46 枚の錢貨が出土し、最古錢は「開元通宝」、最新錢は「元豊通宝」(北宋錢、初鑄 1078 年) である。土坑の側には大型掘立柱建物(馬小屋を伴う 5 間×4 間以上の建物と、西面に庇を持つ 4 間以上×4 間以上、いずれも総柱建物)が重複して築かれる。遺構の時期は 12 世紀中頃～13 世紀後半とみられる。鎌倉時代以降、富山市南部のこの地域一帯は、太田氏や蜷川氏が支配する太田保に含まれ、室町時代には管領細川氏が支配していた。錢貨が出土した土坑からは焼骨や炭、焼土、礫なども出土し、錢貨や礫は多くが焼けており、この地域を支配した有力者が亡くなった際に、その副葬品として錢貨を埋納していたことが推測される。

(3) 太田中田Ⅱ遺跡

昭和 59 (1984) 年 10 月に富山市太田中区(太田字中田割)の市道工事中に古錢約 300 枚が出土し、埋蔵物の発見届が提出されている。現時点で、この埋蔵錢がどこで保管されているか確認できないことから、錢種などの詳細は不明である。出土地点付近は、中世の太田保の本郷であった地区で、鶴川と筏川の間の立山参詣道が南北に通る交通の要衝となっている。越後の上杉謙信が越中の一向一揆衆を包囲するため、上杉氏の家臣・河田長親によって本郷の向城として造られた太田本郷城の北東約 250m に位置する。近くの刀尾神社は加賀藩三代当主前田利常が保護した立山七社の一つで、立山道の西玄関とされた立山信仰の拠点でもある。同社に隣接する真言宗刀尾寺は大宝年中創設と伝わり、立山開山慈興の作といわれる不動明王を本尊とするなど、錢貨出土地点周辺には中世城館や有力寺社が位置し、それらを背景とした有力者によって埋蔵されたことが推測される。

3 富山県内における大量一括埋蔵錢の出土状況

富山県内での埋蔵錢の出土は、鎌倉時代に現われ、室町時代に多くみられる。埋蔵錢は、遺跡発掘調査中にみつかる場合と、ほ場整備工事や道路工事などの最中に不時発見される場合もある。県内における大量一括埋蔵錢の出土状況は、表 2 のとおりである。概ね 300 枚以上の大量一括埋蔵錢が出土する地点は 23箇所確認できる。

錢貨をまとめて埋めた理由として、貯蔵や貯蓄(備蓄)、戦争や災害などからの緊急避難、呪術等様々な説がある。呪術的な埋蔵錢(埋納錢ともいう)としては、墓に埋める「副葬錢(六道錢)」や山岳信仰に捧げる「奉賽錢」、土地の開発の際や城館等の境界で行うまつり、

井戸廃棄に伴う「祭祀銭」等がある。

番号	遺跡名等	所在地	遺跡の性格	立地	時期	銭種	枚数	最古銭	最新銭	収納容器	出土数量順位	備考	出典等	
1	明石遺跡	朝日町明石		斜面		56	6,453	開元通寶	宣徳通寶	コモ(ムシ口)か	5	大正12年畠作業中出土	朝日町宮崎自然博物館・朝日町郷土の遺跡を語る会1980[越中宮崎城下出土銭考]	
2	天戸遺跡	朝日町三枚橋宇天戸		平地			約1,100	開元通寶	永樂通寶	不明	15			
3	舟見小柴遺跡	入善町舟見		平地	15後半～16世紀初頭	37	3,371	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	8	昭和47年ほ場整備工事中出土	入善町教育委員会 1973[舟見発掘の古銭整理報告書]	
4	法福寺前遺跡	黒部市宇奈月町明日	寺院関連	台地	16世紀初頭	53	12,534	開元通寶	宣徳通寶	越前焼・壺	2	大正2年畠作業中出土	『追録・宇奈月町史歴史編』1989、富山考古学会再調査	
5	植木	黒部市植木		平地			約1,000			越前焼・壺	17	大正13年	黒部市教育委員会より教示	
6	江上B遺跡	上市町江上	集落	平地	14世紀前半	37	559	開元通寶	嘉定通寶	珠洲焼・壺	19	SK106から37種559枚、SK088から27枚、SD014から3枚、SD066から1枚、K17Y43区から1枚(寛永通宝)、出土区不明6枚(1枚寛永通宝)	上市町教育委員会 1982[北陸自動車道遺跡調査報告一上市町土器・石器編]	
7	大坊谷	立山町上末	寺院敷地内	台地			400以上			不明	20		『立山町史』上巻	
8	高善寺	富山市八尾町高善寺		平地	15世紀か	43	11,884	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	3	昭和59年ほ場整備工事中出土、令和4年発見者家族から市に寄附	本稿	
9	各願寺前遺跡	富山市婦中町長沢	寺院関連	台地	15世紀か	52	2,390	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼の壺か	10	平成7年側溝工事中、97枚で1縁	大野英子2015	
10	上布目遺跡	富山市上布目	集落	平地			37	約3,200	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	9	600枚撰出し調査、その他10kg、昭和47年工事中出土	富山県埋文センター保管
11	太田中田II遺跡	富山市太田中区		平地			約300			不明	23	昭和59年道路工事中に出土		
12	八塚C遺跡	射水市大島町八塚	寺院	平地		23以上	約1,000	開元通寶	寛永通寶(永樂通寶)	不明	16			
13	布目沢II遺跡	射水市大門町布目沢字畠畠		平地		69	22,938	貨泉	宣徳通寶(新寛永)	越前焼・壺	1	昭和39年ほ場整備工事中出土、100枚の縁が大半、100枚継ぎの300枚縁銭あり	大門文化会1964[布目沢出土銭誌]	
14	古戸出	高岡市古戸出		平地		48	6,072	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	6	昭和48年工事中出土	富山県埋文センター保管	
15	舞谷前田島遺跡	高岡市福岡町	山麓の縁辺部	15世紀第2四半期～16世紀	57	5,500	開元通寶	宣徳通寶	木箱	7	平成16年「こぶし莊」直下の斜面の地すべり対策工事中に発見、縁銭の状態	富山県高岡市福岡町埋蔵文化財分布調査報告IV		
16	鷹栖神吾遺跡	砺波市鷹栖字神吾		平地			約2,000	開元通寶	永樂通寶	不明	11			
17	下中条遺跡	砺波市下中条		平地		36	359			不明	22			
18	香城寺遺跡	南砺市福光町香城寺	寺院敷地内	山麓	15後半～16世紀初頭	48	1,388	開元通寶	宣徳通寶	不明	14	明治初め頃耕作中出土	富山県福光町医王山文化財調査委員会 1993[医王は語る]	
19	矢倉畑遺跡	南砺市福光町祖谷	八幡社前	平地			600			茶色の壺	18			
20	朝日十字路遺跡	氷見市朝日丘		平地	15後半～16世紀初頭	56	6,495	開元通寶	宣徳通寶	珠洲焼・壺	4	昭和57年水道工事中出土	氷見市史編さん委員会 2002[氷見市史考古]	
21	中尾ガメ山遺跡	氷見市中尾茅戸		山裾	13世紀後半か	41	1,805	開元通寶	咸淳元寶	不明	12	昭和50年ため池工事中、30枚単位で結ぶ	湊辰・岸鳥清文1983[中尾古錢埋置遺跡]『氷見春秋』第2号	
22	小竹遺跡	氷見市小竹	山城	標高240m		34	389	開元通寶	永樂通寶	不明	21	縁銭か、ペトナムの治平通寶を含む、小竹山城のC郭の直下	氷見高校歴史クラブ 1951[昭和25年度研究調査報告集]	
23	西朴木フルヤチ遺跡	氷見市西朴木	不明	丘陵先端		51	1,470	開元通寶	宣徳通寶	不明	13	昭和25年頃不時発見	氷見市埋蔵文化財分布調査報告(丘陵地区) IV 2004年3月	

表2 富山県内における大量一括埋蔵銭の出土状況（一か所で数百枚単位以上のもの）

おわりに

八尾町高善寺地内に隣接する館本郷地区には、15世紀に田中保を領有した豪族田中市正の館跡と伝わる館本郷館跡が所在する。市正は明応2(1493)頃、又は越後長尾氏との争いで戦死したと伝わる。また、出土地の近隣から寺院に安置される供養塔(宝篋印塔)の一部が昭和39年頃みつかり、銭貨出土地の南約300mには地名の由来となった高善寺(現・勝福寺)が所在していた。応仁の乱や一向一揆が起こる等、世情不安定な時期でもあり、大量の銭貨が埋蔵されたのは、寺院や有力者が戦乱などから回避するためだったのではないだろうか。

文献

- 塩田明弘 2002 「富山県における大量一括埋蔵銭集成」『出土銭貨』 第17号 出土銭貨研究会
 宮田進一 2004 「氷見市西朴木フルヤチ遺跡の一括大量出土銭」『氷見市埋蔵文化財分布調査報告書IV』 氷見市教育委員会
 大野英子 2015 「富山市各願寺前遺跡の一括出土銭について」「富山市考古資料館紀要」第34号
 富山市考古資料館

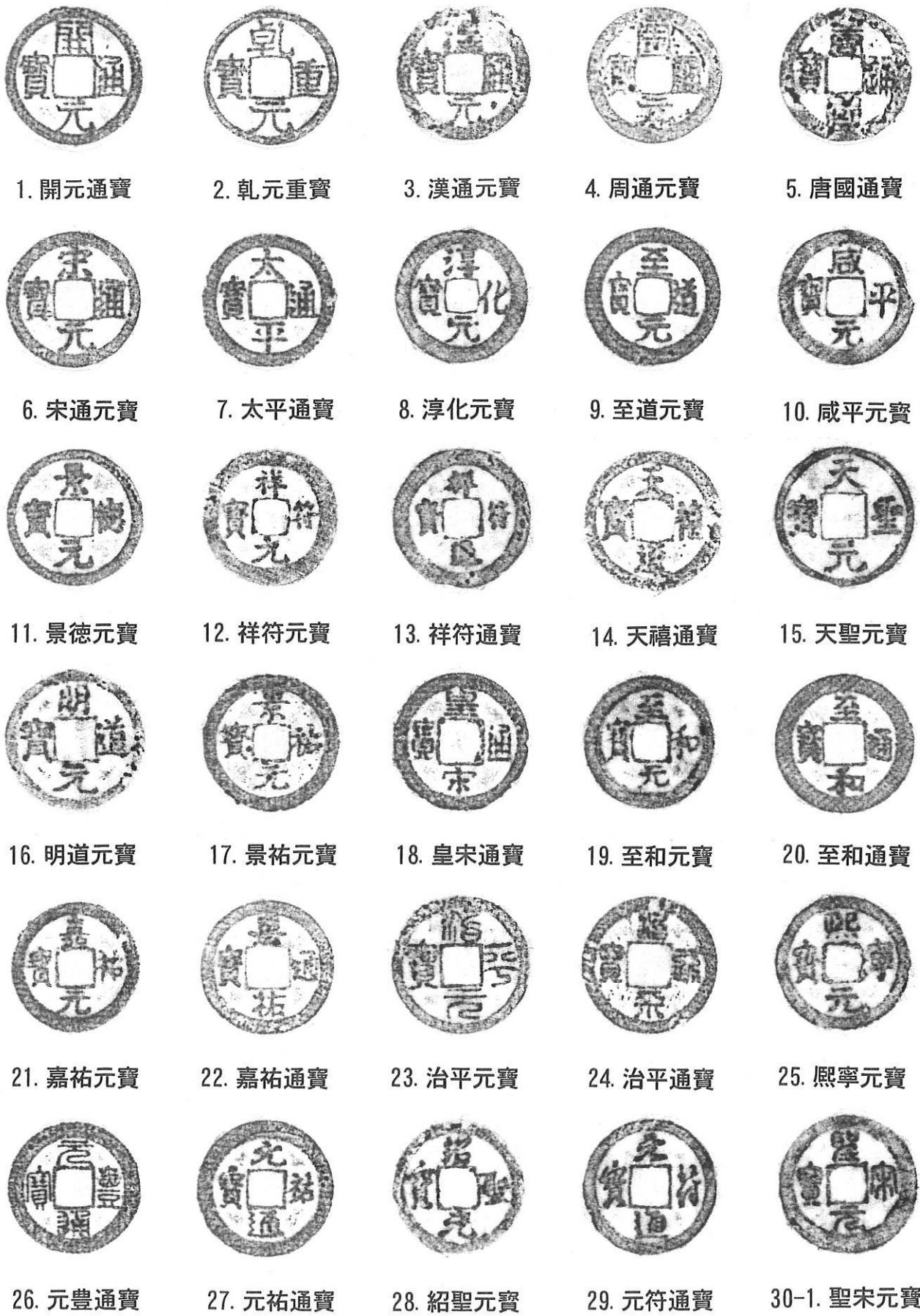


図1 八尾町高善寺地内出土埋蔵銭種の拓本一覧 (1) (S=1/1)



30-2. 聖宋元寶
(折二錢)



31. 大觀通寶



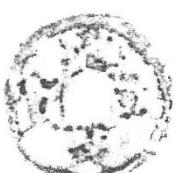
32. 政和通寶



33-1. 宣和通寶
(折二錢)



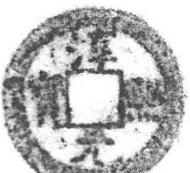
33-2. 宣和通寶
(折二錢)



34. 建炎通寶



35. 正隆元寶



36. 淳熙元寶



37. 紹熙元寶



38. 慶元通寶



39. 嘉泰通寶



40. 嘉定通寶



41. 大宋元寶



42. 紹定通寶



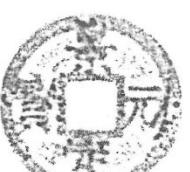
43. 端平元寶



44. 淳祐元寶



45. 皇宋元寶



46. 景定元寶



47. 咸淳元寶



48. 洪武通寶



49. 永樂通寶



50. 宣德通寶

図2 八尾町高善寺地内出土埋蔵錢種の拓本一覧 (2) (S=1/1)

野垣 好史（埋蔵文化財センター 主査学芸員）

はじめに

北アルプス・薬師岳（2,926m）は、古くから信仰の対象とされてきた山である。埋蔵文化財センターは、平成22年度に山頂での分布調査を行い、奉納剣・角釘・刀子・銅製品・青磁・祠材といった遺物を確認した（野垣2012）。これを受け、平成23年4月、『富山市遺跡地図』に「薬師岳山頂遺跡」を登載した。

今回、山頂にある築52年の祠「薬師堂」が老朽化のため再建されることとなった。令和4年9月に祠の解体、整地、石積みの積み直しが行われたため、文化財保護法に基づき工事立会を実施した。本稿ではその成果を報告する。

1 薬師岳の概要

（1）地理・歴史的環境

薬師岳は、富山市南東部に位置し、地籍は富山市有峰に属する。どっしりとした気品のある山容は「北アルプスの貴婦人」とも呼ばれ、日本百名山の一つに選ばれている。

開山は明徳元年（1390）と伝えられる。麓の有峰村に住んでいた駕籠の担荷棒作り職人「ミサの松」が薬師如来に導かれて登頂、如来が姿を消した場所にお堂を建て「岳の薬師」として祀り、有峰村には宮を建て「里の薬師」にしたとされる。有峰村の人々は、毎年旧暦の6月15日に15歳から60歳までの男子が総出で山頂に参詣した。女人禁制であった。承応3年（1654）の祈願文には、3年に一度、剣を奉納すると記されており、昭和30年代までは山頂の祠前には奉納剣が小山のように積み上げられていたという。模造剣の奉納は薬師岳信仰の大きな特色である。

（2）祠の変遷

山頂の祠は、過去に幾度も建て替えられている。五十嶋一晃氏（2004）、佐伯哲也氏（2010・2011）、古川知明氏（2012）の論考を参考すると、次の変遷が認められる（注1）。

1期 江戸時代以前を1期にまとめるが、本来はさらに細分できるであろう。伝承によれば、明徳元年（1390）にお堂を建て「岳の薬師」を祀ったとされる。文献では、享保3年（1803）の山廻り記録に「堂北居南面 七尺五寸二四尺」の記載がある。また、文化7年（1810）『上奥山御境目廻り』や文化12年『有峰御薬師参詣』は三室構造とし、後者は「御薬師堂。眞南向。行間九尺、見込四尺」と記す。なお、構造不明ながら、天明2年（1782）の『新川郡奥山御境目絵図』では山頂に赤色の建物が描かれる。本図は写図で、原図は江戸中期の成立とされる（立山博物館2002）ことから、天明2年より前の祠とみられる。

2期 明治20年頃から大正12年8月以前に存続。間口八尺、奥行約三尺で三室構造。

3期 大正12年8月以前から昭和32年以降、昭和34年までの間に存続。昭和27年以降のある時点から、強風のためか板張りと右の棟持柱がなくなる。

4期 昭和32年以降のある時点から昭和34年まで。間口50cm程の小祠で、後に現在（6期）の祠の中に納められた。

5期 昭和34年から昭和44年まで。周囲を石積みで囲む。奉納剣に落雷があり全壊。

6期 昭和45年から令和4年まで。今回解体された祠である。

2 工事立会の成果

(1) 調査概要

工事立会は、令和4年9月25・26日に行った。前日の24日に太郎平小屋まで行き宿泊、翌25日は山頂での立会後、太郎平小屋で宿泊し、26日も再び登頂して立会。終了後に下山した。25・26日とも晴天に恵まれた。調査担当者は、埋蔵文化財センターの鹿島昌也主幹学芸員と野垣好史主査学芸員の2名である。

工事内容は、①祠の解体、②解体後の地面の整地、③祠周囲の石積みの一部積み直しである。いずれの作業も人力による。①・②の作業は25日に完了し、③は25日後半から26日に行われた。遺物は、表1のとおり発見地点ごとに（一部は遺物種や材質ごとに）収納袋を違えながらA～Oに分けて取り上げ、後日すべてにNo.1～60の通し番号を付けた。

(2) 調査の成果

①祠の解体 解体した祠の規模は、幅3.2m×奥行1.94m×高さ2.16mの単室構造である。正面扉は観音開きとなる。解体は、屋根材から順に上から行われた。

A（遺物No.1）は祠内に置かれていた薬師岳の石銘板である。B（No.2）は地点不詳だが、祠内とみられる。C（No.3）は祠の屋根材に貼り付けられていた奉納剣、D（No.4～7）は屋根下の中央梁の上に置かれていた奉納剣である。C・Dのうち4点は昭和の年号があり、材質はトタンもしくはブリキである。A～Dは現代の遺物である。

E（No.8～17）は、屋根の下の中央梁の上に置かれていた。大小の鉄製奉納剣が主であるが、16・17は長方形状の鉄板で過去の祠に使われていた建築金具かもしれない。

F（No.18）は、梁の上に置かれていた鉄製奉納剣である。

G（No.19）は、背面の中央の柱に立てかけられていた鉄製奉納剣である。

H（No.20）は、現代の奉納剣とみられ、鏽もない。柄部分に、☆印と苗字とみられるローマ字が陰刻されている。

I（No.21～31）も祠の解体中に見つかったが、詳細な位置は不詳である。いずれも鉄製奉納剣である。21は厚みがあり、柄尻が環頭状になる特殊な例である。

以上のうちC～G地点の遺物は、昭和45年の祠建築時に梁上に置かれたり、屋根材に貼り付けられたりした可能性がある。昭和44年に落雷で全壊した旧祠に元々奉納されていたものや、周辺に散乱していたものが納められたのではないか。ただし、梁の上は建築後でも置くことはできたとみられるため、必ずしも建築時に限定されないかもしれない。

②地面整地 解体後の祠の下の地面は、岩石がごろごろした状況であったため、祠の再建に備え、大きな岩石は除去したうえ細かい土砂を敷き平坦に整地された。作業過程でJ（No.32・33）、K（No.34）の遺物が出土した。Jの2点はいずれも鉄製奉納剣で、Kはテツボラの貝殻である。採集はしていないが、現代の空き缶などもあった。

③石積みの積み直し 祠は方形の石積み（幅約7m×奥行約6m）上に建立されている。この石積みの一部積み直しも行われた。大きく崩れていた西側（祠に向かって左側）での作業が主で、北側（祠の裏側）も一部積み直された。

西側の積み直し中、下方の裏込めにあたる部分の岩石の隙間からL～N（遺物No.35～59）の遺物が出土した。奉納剣を中心とし、他に角釘・丸釘・刀子？・留具？・寛永通宝・現代硬貨、木材があり、江戸期から現代の遺物が混在する。一代前の昭和34年建立の祠（5期）の写真にみえる石積みは、正面向かって右側は現在と同じである。対して3期の祠の写真を見

ると、祠は若干高まりの上に建つが、現在のようなしっかりした石積みは見えない。また、4期は小祠であることを考えると、現在の石積みは、昭和34年の5期祠の建立時に構築され、部分的な修築を経て現在に至るとみてよい。したがって、今回出土した遺物は、昭和34年の石積み構築時に周辺に散乱していた江戸期から現代の遺物が、一緒に埋まつたものとみられる。構築後にあたる昭和51年の10円硬貨は石の隙間から混入したのであろう。

(3) 遺物について

遺物の大半は奉納剣である。明らかに現代とみられる資料を除くと、いずれも薄い鉄板で作る、円形の鐔を有する、切先に向かって幅広になる形態は共通するが、大きさや柄の形状、孔の有無・位置などによりバラエティがある。大きさは、小型品は8.8cm(No.36)から大型品は復元すれば50cmを超えるであろうもの(No.31)まである。柄は、端部が直線的なタイプと尖るタイプがあり、直線的なものの一部には径1~2mmの孔がある。古川知明氏が指摘するところ(古川 2012)、端部が尖るタイプは祠の柱や屋根材へ刺突され、孔があるタイプは柱材や扉へ釘による打ち付けがなされたのであろう。その他は祠前へ置かれたのかもしれない。

今回の調査では、薬師岳でこれまで確認されていなかった銭貨(寛永通宝)が4点見つかった。うち少なくとも2点は古寛永と新寛永に分類できる。石積み内的一部から見つかった点を考慮すると、本来はさらに多く存在する可能性が高い。薬師岳ではこれまで江戸時代の遺物は奉納剣がほとんどを占めていたが、銭貨の出土によって信仰の異なる側面も考慮される。また、大日岳や雄山山頂では宋銭も見つかっているのに対し、薬師岳は寛永通宝のみである。資料が少ないとことによる偶然かもしれないが、信仰のあり方の違いに基づく可能性もある。

おわりに

山頂では、今回見つかった遺物以外にも、過去に多くの遺物が確認されている。奉納剣を中心としつつ、それ以外に銭貨・角釘・刀子・雁股鏃・陶磁器・八角鉄鋸・和鏡・火打鎌等がある。時期も中世から現代まで幅広い。これらにより今後さらに薬師岳信仰の実態が明らかになることが期待される。

注

(1) 野垣2012では3期と4期を1つにまとめて5期区分としていたが、本稿では6期区分とみたい。

参考文献

- 五十嶋一晃 2004『岳は日に五たび色がかわる』太郎平小屋50周年記念誌編集委員会
大山町 1964『大山町史』
50周年記念誌編集委員会 2004『太郎平小屋50周年を迎えて』
小林高範 2011「薬師岳に奉納された模造剣について」『富山市の遺跡物語』No.12 富山市埋蔵文化財センター
佐伯哲也 2005「大日岳及び薬師岳で採集した遺物について」『大境』第25号 富山考古学会
佐伯哲也 2007「山頂採取遺物から推定する山岳信仰一大日岳及び薬師岳の採取遺物からー」『日本海文化』
研究所公開講座平成18年度記録集 山からみた日本海文化II
佐伯哲也 2010「薬師岳山頂の信仰遺跡について」『大山の歴史と民俗』第13号 大山歴史民俗研究会
佐伯哲也 2011「採取遺物から見る薬師岳信仰」大山歴史民俗資料館企画展記念講演会資料
立山博物館 2002『絵図に見る加賀藩と黒部奥山』
野垣好史 2012「薬師岳分布調査報告」『富山市考古資料館報』No.49
広瀬 誠 1977「薬師岳の信仰と有峰びと」『白山・立山と北陸修験道』名著出版
古川知明 2012「薬師岳山頂の奉賽品について」『大境』第31号 富山考古学会

発見位置		遺物No.	取上日	遺物	材質	長	幅	厚	備考	
A	祠内に縦置	1	220925	石銘板	花崗岩	30.0	16.2	1.6	「薬師岳 2,926m」の陰刻。2つに割れる。「祈世界平和 新型二ロナ終息」と書かれた個人名の刻記。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
B	祠内?	2	220925	石	石	5.1	3.5	2.0	「祈世界平和 新型二ロナ終息」と書かれた個人名の刻記。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
C	祠屋根材へ貼付け	3	220925	奉納劍	プラスチック?	21.8	6.1	0.05以下	「奉納 昭和二五ヶ年八月吉日 家内安全無病息災 該中國高岡〔個人名〕」の刻記。円形鋸	K 祠の下(地面 上)
D	祠屋根下の中 央梁の上	4	220925	奉納劍	トランオーブ リキ	27.5	7.0	0.05	「奉納 昭和三十四年八月二十九日〔個人名〕の墨書き。方形鋸」と書かれた個人名の刻記。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
		5	220925	奉納劍	トランオーブ リキ	27.5	7.3	0.05	「奉納 昭和三十四年八月二十九日〔個人名〕の墨書き。方形鋸」と書かれた個人名の刻記。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
		6		奉納劍	トランオーブ リキ	26.5	6.5	0.05	「奉納 昭和三十四年八月二十九日〔個人名〕の墨書き。方形鋸」と書かれた個人名の刻記。円形鋸	K 祠の下(地面 上)
		7		奉納劍	トランオーブ リキ	21.7	5.8	0.05以下	「〔個人名〕を刻む。柄付近に孔」の刻記。円形鋸	K 祠の下(地面 上)
		8		奉納劍	鉄	13.0	2.1	0.1	円形鋸	J 祠の下(地面 上)
		9		奉納劍	鉄	(9.4)	2.2	0.1	身残存	J 祠の下(地面 上)
		10		奉納劍	鉄	(12.2)	4.6	0.1	身の一部残存。孔あり	J 祠の下(地面 上)
		11		奉納劍	鉄	(19.5)	4.8	0.1	身の一部残存。	J 祠の下(地面 上)
		12	220925	奉納劍	鉄	(18.7)	2.8	0.1	鋸の一部 柄残存。円形鋸。柄付近に孔	L 西側石積み内
E	祠屋根下の中 央梁の上	13		奉納劍	鉄	(22.6)	7.0	0.1	鋸・柄残存。円形鋸。柄尻尖る	J 祠の下(地面 上)
		14		奉納劍	鉄	(18.9)	7.9	0.15	身の一部 鋸・柄残存。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
		15		奉納劍	鉄	(33.2)	5.4	0.1	身下半 鋸・柄残存。円形鋸。柄尻と身元付近に孔。	J 祠の下(地面 上)
		16		建築工具か	鉄	18.2	4.2	0.1	方形	J 祠の下(地面 上)
		17		建築工具か	鉄	20.1	4.8	0.15	方形 剣部に孔。	J 祠の下(地面 上)
F	祠梁の上	18	220925	奉納劍	鉄	(7.1)	5.4	0.1	鋸・柄残存。円形鋸。柄は180度折れ曲がる	J 祠の下(地面 上)
G	祠背面中央の柱に立てかけ	19	220925	奉納劍	鉄	(11.1)	6.2	0.1	身先端残存。	J 祠の下(地面 上)
H	祠北側土台上 (北西隅)	20	220925	奉納劍	鉄?	16.2	6.9	0.4	「☆」と「苗字?のローマ字表記」の陰刻。柄尻は環頭状となる。柄に孔2つ	J 祠の下(地面 上)
		21		奉納劍	鉄	14.6	5.2	0.4	鋸を表現しない形態。柄尻尖る	J 祠の下(地面 上)
		22		奉納劍	鉄	14.2	2.5	0.1	円形鋸。柄尻尖る。柄は「コ」字状に折れ曲がる	J 祠の下(地面 上)
		23		奉納劍	鉄	9.2	1.9	0.1	円形鋸。柄尻尖る。柄は「コ」字状に折れ曲がる	J 祠の下(地面 上)
		24		奉納劍	鉄	11.7	2.5	0.1	鋸の一部 柄残存。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
		25		奉納劍	鉄	(11.2)	2.3	0.1	鋸の一部 柄尻尖る。柄は「コ」字状に折れ曲がる	J 祠の下(地面 上)
I	祠内	26	220925	奉納劍	鉄	(13.5)	(2.9)	0.1	鋸の一部 柄残存。円形鋸。柄尻尖る	J 祠の下(地面 上)
		27		奉納劍	鉄	16.1	2.7	0.1	円形鋸。柄尻尖る。柄は「コ」字状に折れ曲がる	J 祠の下(地面 上)
		28		奉納劍	鉄	14.0	2.7	0.1	円形鋸。柄中央に孔	J 祠の下(地面 上)
		29		奉納劍	鉄	(16.2)	3.6	0.1	身残存	J 祠の下(地面 上)
		30		奉納劍	鉄	(12.4)	5.8	0.1	鋸・柄残存。円形鋸	J 祠の下(地面 上)
		31		奉納劍	鉄	(22.7)	7.9	0.15	大型 身の上半部残存	J 祠の下(地面 上)

表1 工事立会で確認した遺物

※大きな単位はcm。()は、氏名・団体名等が書かれた部分を伏せた箇所

※備考欄の()は、氏名・団体名等が書かれた部分を伏せた箇所



薬師岳山頂



祠の内部



梁の上から見つかった奉納剣



祠の解体作業



祠背面の中央の柱に立てかけられた奉納剣



解体後の地面整地



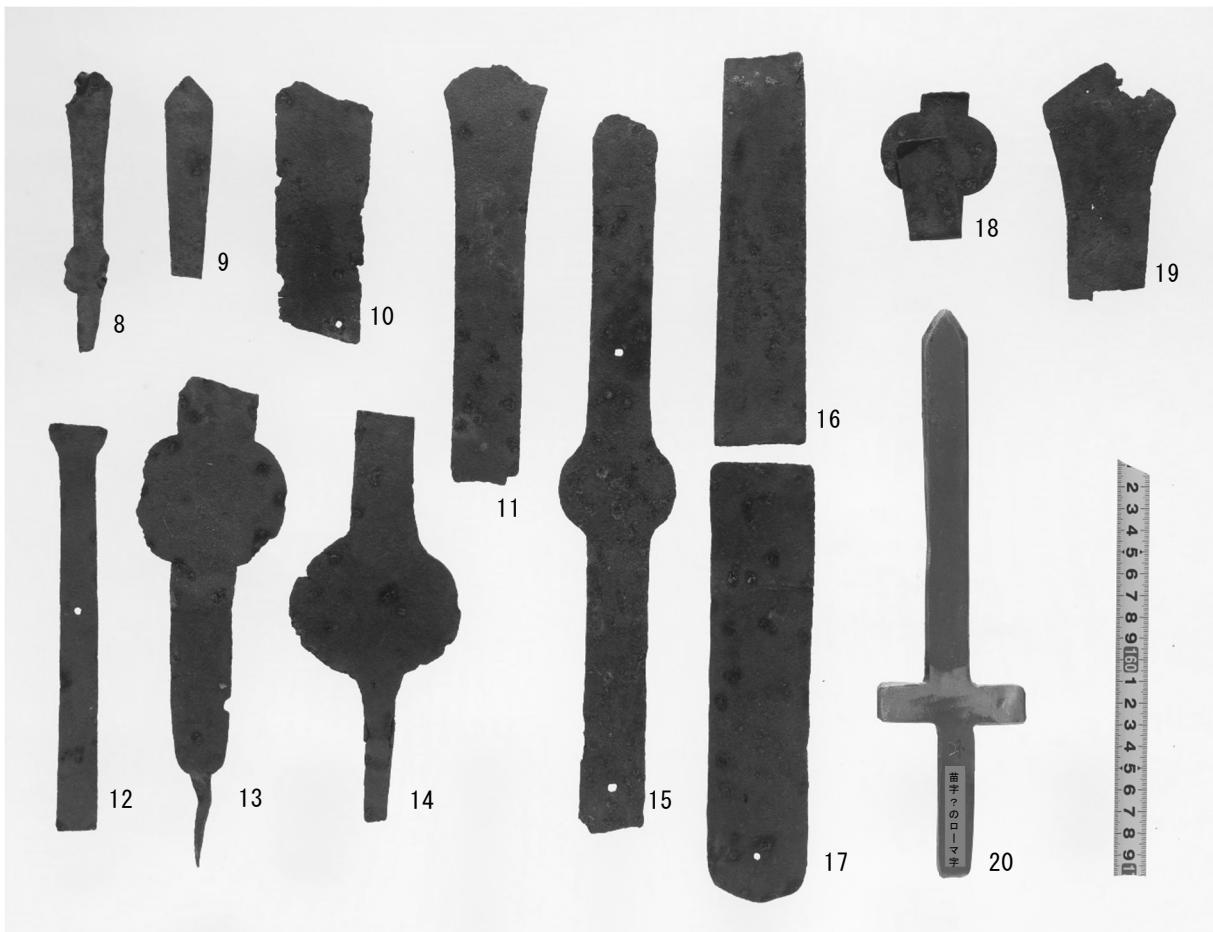
西側石積みの崩落状況



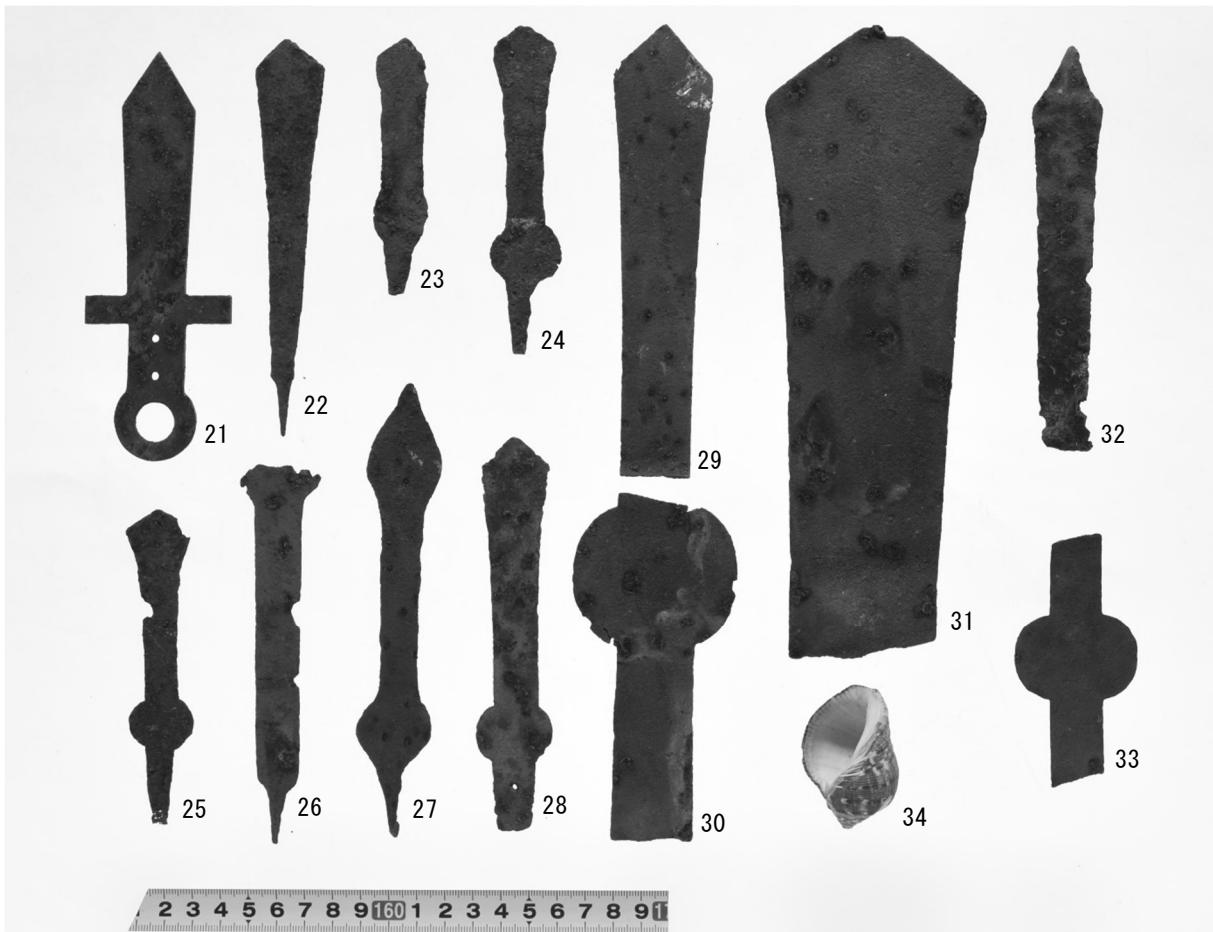
西側石積み内から出土した奉納剣



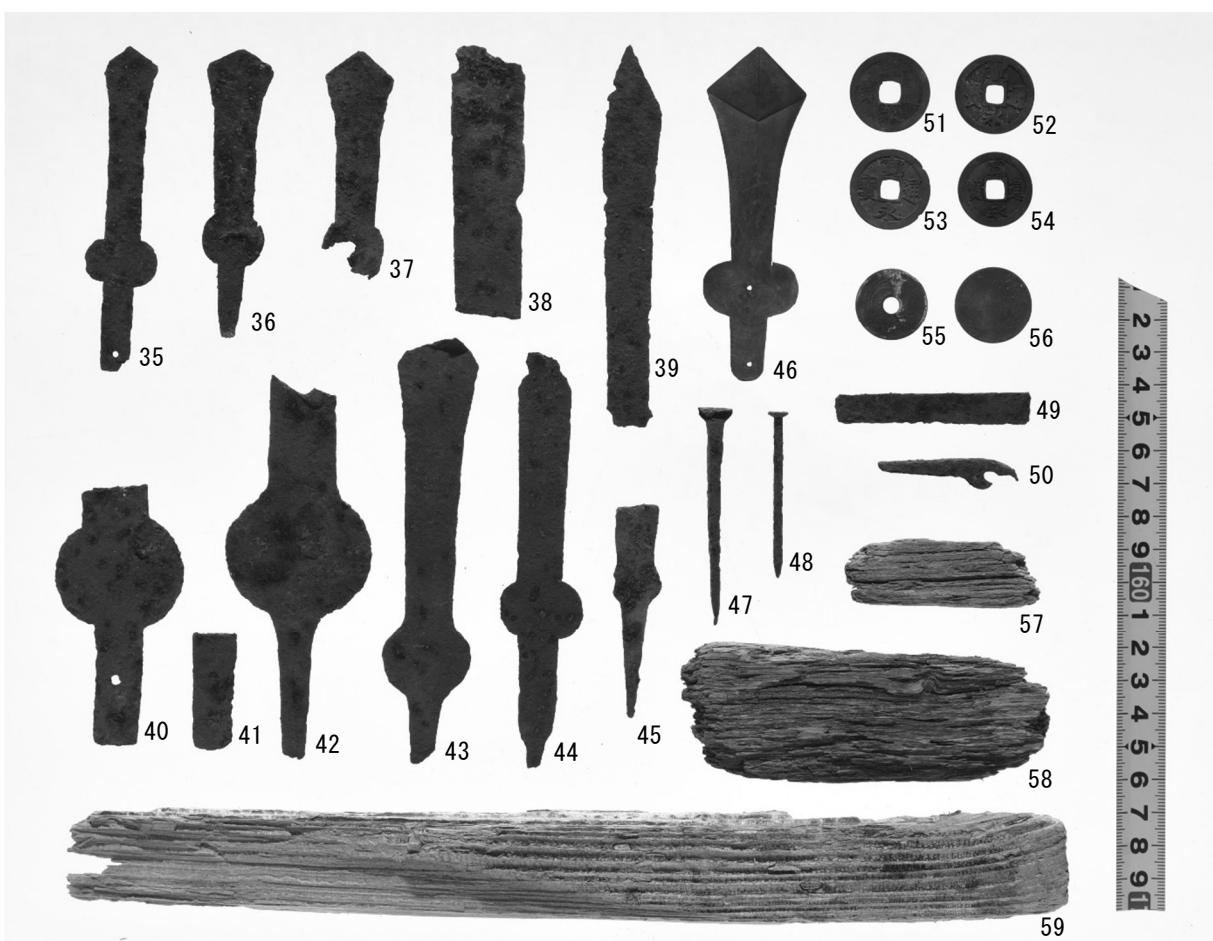
遺物 (1)



遺物 (2)



遺物（3）



遺物（4）

鹿島 昌也（埋蔵文化財センター主幹学芸員）

はじめに

令和 4（2022）年は日本の鉄道開業 150 年という節目の年を迎えたことを機に、各地の博物館や資料館で、鉄道に関連する展示会が催された。富山市郷土博物館では『特別展 富山駅 123 年一街の玄関口から中心へ』が同年 10 月 1 日～11 月 27 日に開催され、その準備段階で、同館学芸員から「市内で汽車土瓶が出土していないか」との問合せを受けた。

駅弁とともに販売されたお茶の容器は、明治期から昭和 30 年代までは主に陶器製で、「汽車土瓶（茶瓶）」と呼ばれ、各地の駅や鉄道沿線で発掘されることがある。明治 32（1899）年に開業した富山停車場（婦負郡桜谷村、現・富山市田刈屋）周辺や明治 41（1908）年に移転した現・富山駅周辺は、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に含まれておらず、発掘調査等は実施されていないため、汽車土瓶使用の実態は不明であった。現・富山駅南の市街地に位置する「富山城跡」発掘調査の出土品中に、これまで 2 点の汽車土瓶を確認できたので本稿で紹介する。

1 富山城跡出土の汽車土瓶

平成 26（2014）年に実施した旧総曲輪小学校跡地の総曲輪レガートスクエア整備（総曲輪四丁目地内）に伴う発掘調査の出土品中に、完形品の汽車土瓶 1 点を確認した。近代以降の出土品のため報告書（富山市教育委員会 2017）未掲載品として収蔵庫に保管されていたが、郷土博物館の特別展を契機に初公開、展示図録に写真が掲載された。その後にも新たに同地区から破片 1 点を確認したことから、それらの概要を報告する。

汽車土瓶①

汽車土瓶①は高さ 8.2 cm、口径 3.4 cm、底部は一辺 7.0 cm × 7.0 cm で四隅に幅 2 cm の面を持つ。口径 1 cm の注ぎ口と穿孔のある吊手が 2 か所付随し、把手となる針金が残る。2 か所の穿孔間は 7.0 cm を測る。側面の狭面部分 1 面に「お茶」の浮き文字が施される。畠中英二氏による分類（畠中 2007）では、形態は「吊り下げ茶瓶（土瓶折衷形）」、製作方法は「泥漿鑄込」という型づくりである。外面と口縁内面に透明釉が施され、内面と底部に近い外面と底部は露体で、底部には被熱による煤が付着しており、汁物を温める容器として再利用されていた。美濃焼とみられる。

出土した地点は、明治期に富山城三ノ丸南側の外堀を埋め立てた後、その北肩部分に沿う形で地境を示すために構築された石組み水路（SD01）から、大量の近代陶磁器などと共に出土した。この水路は郷土博物館所蔵の明治 26（1893）年富山市街実測図にみえる。同館所蔵の明治 18（1885）年富山市街見取全図では、水路の表記はなく、外堀が表現されていることから、石組み水路はこの絵図が描かれた後の、明治 20（1887）年前後に構築されたとみられる。汽車土瓶が廃棄されたのは、それ以降の年代と推測される。



写真 2 富山城跡出土
汽車土瓶①（左）汽車土瓶②（右）

汽車土瓶②

汽車土瓶②は破片で残存高 8.0cm、一辺 6.5 cm 以上、厚さ 2~3 mm を測る。側面上部に右横書きによる「鉄道口」、面取り部分に縦書きで「口茶」の「茶」の陰刻文字の一部がみえる。美濃焼と推測され、被熱により破損したとみられる。

出土した地点は、富山城外堀の埋土上層からで、外堀が埋まる明治 20 年頃以降廃棄されたようだ。

参考とした、高山本線下麻生駅付近出土の汽車土瓶と比較すると、汽車土瓶②の文字は「鉄道省」と推測できる。⁽¹⁾ 鉄道省は大正 9 (1920) 年に設置され、昭和 18 (1943) に運輸通信省に改称された。

おわりに

汽車土瓶①②が出土した地点は、富山駅から南に約 130m 離れる。大正 2 (1913) 年には、北陸本線が全線開通、市内軌道線も開通し、駅と市街地が結ばれ、近くには「総曲輪」や「市役所前」、「郵便局前」の電停ができ、裁判所や病院、小中学校などが立地する。また、汽車土瓶が出土した総曲輪の南には旧北陸街道に面した旅籠町があり、江戸期には旅籠宿が複数軒営まれていた。明治期に入り木屋旅館などが開業し、旅籠街の伝統が引き継がれるが、大正 15 (1926) 年の大火灾で街の様相は一変したようだ。汽車土瓶は、このような交通網の発展や街の様相から大正後期～昭和初期に富山駅経由で街を訪れた人が持込み、出土地点周辺に滞在後残された土瓶が再利用され、その後大火などによって破損し、廃棄されたと推測する。

このほかにも発掘調査では、汽車土瓶として用いられる「山水土瓶」など土瓶類が多数出土している。富山の街の近代化とともにたらされた汽車土瓶に、今後も注目していきたい。

注

(1) 汽車土瓶には「鉄道局」と陰刻されるものもある（ここでは出土していない）が、「局」は面取り部分（「お茶」文字面の上部）に記されることから、汽車土瓶②の陰刻は「鉄道省」と推測される。

文献

大川清 1994 「汽車土瓶の考古学」『月刊考古学ジャーナル』No. 371 ニューサイエンス社

豊田市民芸館 1998 『汽車土瓶』

富山近代史研究会 1999 『近代史研究 第 22 号（富山の交通特集）』

畠中英二編 2007 『信楽汽車土瓶』サンライズ出版

富山市教育委員会 2017 『富山城跡発掘調査報告書』

富山市郷土博物館 2022 『特別展 富山駅 123 年－街の玄関口から中心へ－』



写真 3 富山城跡出土汽車土瓶②(右)

<参考>高山本線下麻生駅(岐阜県)

付近出土汽車土瓶(左)個人蔵

(「鉄道省 認定」「お茶」の文字)